

令和2年度 広域連携DMOとしての北海道インバウンド戦略立案事業
プラットフォーム整備事業

**観光客の位置情報を活用した分析レポート
— 訪日外国人観光客 —**

2021年03月05日

北海道観光振興機構

本レポート作成の目的

観光戦略の立案にあたっては、旅行客の観光実態を把握し、旅行客の好みや興味に合わせた観光コンテンツの開発や受入環境整備、プロモーション等の施策の検討を行うことが重要です。北海道観光活性化に資する情報として、本レポートでは携帯電話の位置情報データを活用した北海道における観光客の分析結果を、道内自治体・DMO・観光関係団体等の一助となるようまとめました。位置情報データを用いることで、道内全域の観光の実態を、調査方法や調査地点、調査精度に依存することなく、統一的な指標で比較、分析することが可能です。

特に訪日外国人観光客については国籍別に、民営化した道内7空港を軸に北海道を7つのエリアに分け、道内各エリアへの訪問者の傾向を分析、エリアごとの特徴を整理し、具体的な打ち手の検討を行いました。

レポートの構成

本レポートは以下の構成でまとめられています。

道内全域の観光実態 P.5

道内全域の訪日外国人観光客の特徴を整理しました。

エリア別の観光実態 P.22

民営化した道内7空港を軸にエリアを分類し、エリアごとの観光客の特徴を整理しました。

エリア区分：上川・留萌エリア、釧路・根室エリア、オホーツクエリア、空知・石狩・胆振・日高・後志エリア、
十勝エリア、宗谷エリア、渡島・檜山エリア

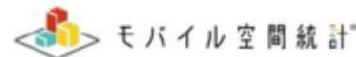
打ち手の検討 P.68

データの分析結果からエリアごとに打ち手を検討しました。

利用データ

本分析レポートでは、ドコモ・インサイトマーケティング社が提供するモバイル空間統計を用いた。
なお、市区町村別の滞在人数は日ごとに1人とカウントしている。

モバイル空間統計とは



“いつ” “どんな人が” “ドコから” “ドコに”
動いたかが分かる、新たな人口統計です。

新たな人口統計



国内 約8,000万台 ※1
訪日外国人 約1,200万台 ※2
の運用データ ※3

※1 2019年3月（本台数より法人名義の契約データ等を除去して推計）

※2 2019年実績

※3 携帯電話をいつでも接続可能な状態に保つために必要なデータ

項目	内容
対象地域	北海道
対象者	訪日外国人観光客
データ	市区町村別の滞在人数
取得期間	2019年1月～2019年12月（1ヶ月ごと）
対象時間	昼間帯・夜間帯・区分なし（1日）
属性	外国人：総数、国・地域別

(注) ビジネス旅行客も含まれている可能性がある点に留意されたい

利用データ

モバイル空間統計を補完するデータとして、ナビタイムジャパン社が提供するインバウンドGPSデータ（訪日外国人観光案内・乗換検索アプリ『Japan Travel by NAVITIME』から利用者の許諾を得て取得したデータ）も用いた。なお、滞在人数は日ごとに1人とカウントしている。



※ モバイル空間統計とインバウンドGPSデータは、データの取得方法やサンプル数などが異なる点に留意されたい。



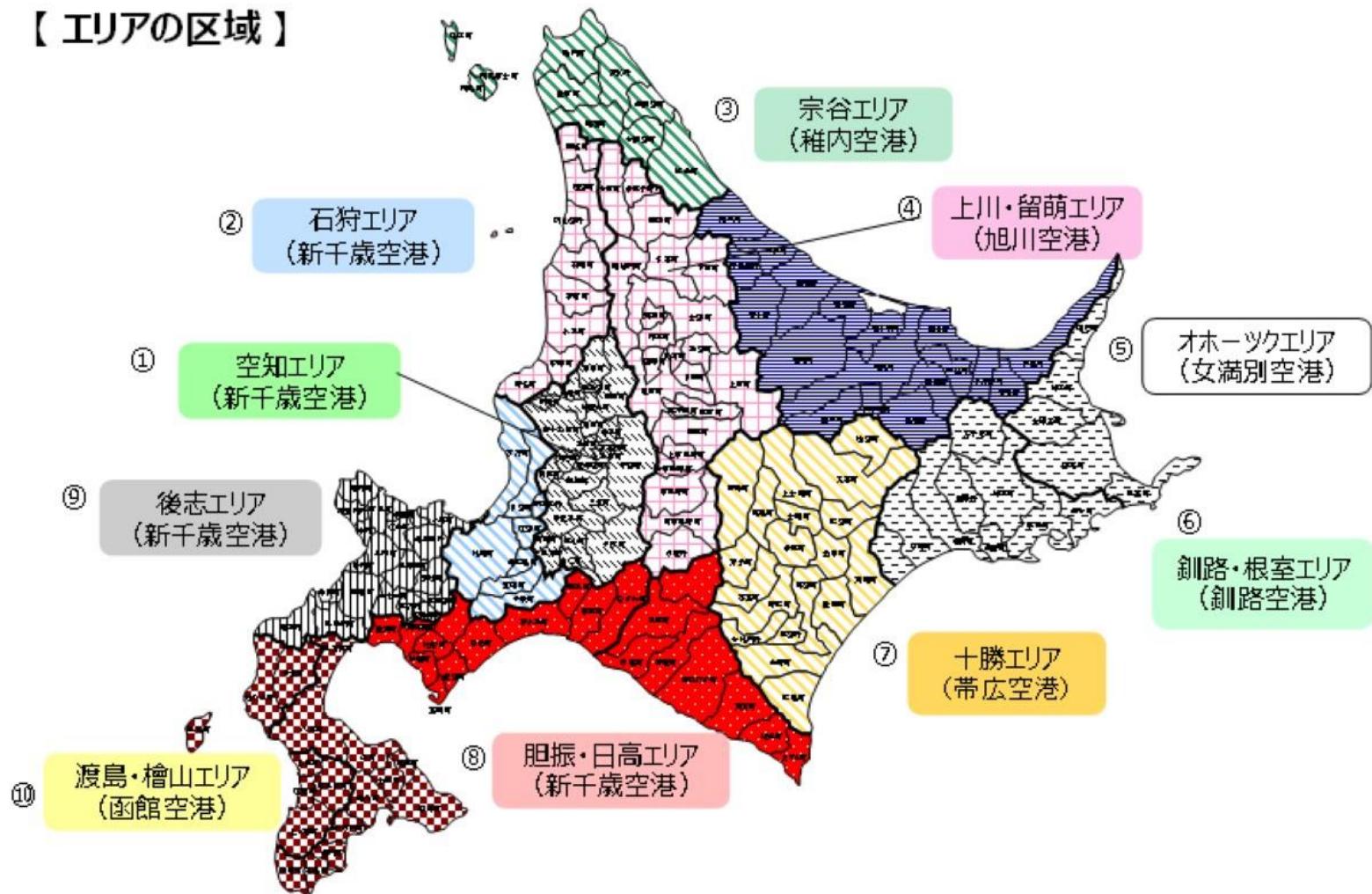
項目	内容
対象地域	北海道
対象者	訪日外国人観光客
データ	市区町村間の周遊データ（24時間以内の移動） 1kmメッシュ滞在データ
取得期間	2019年1月～2019年12月（1ヶ月ごと）
対象時間	昼間帯・夜間帯・区分なし（1日）
属性	外国人：総数、国・地域別

(注) 在留外国人やビジネス旅行客も含まれている可能性がある点に留意されたい

エリア設定

北海道観光振興機構が令和3年度に実施を予定している「広域観光周遊促進事業」をベースに、道内を10のエリアに設定した。尚、エリア別の分析については、この10エリアを民営化した道内7空港を軸に7つのエリアに整理し実施している。

【エリアの区域】

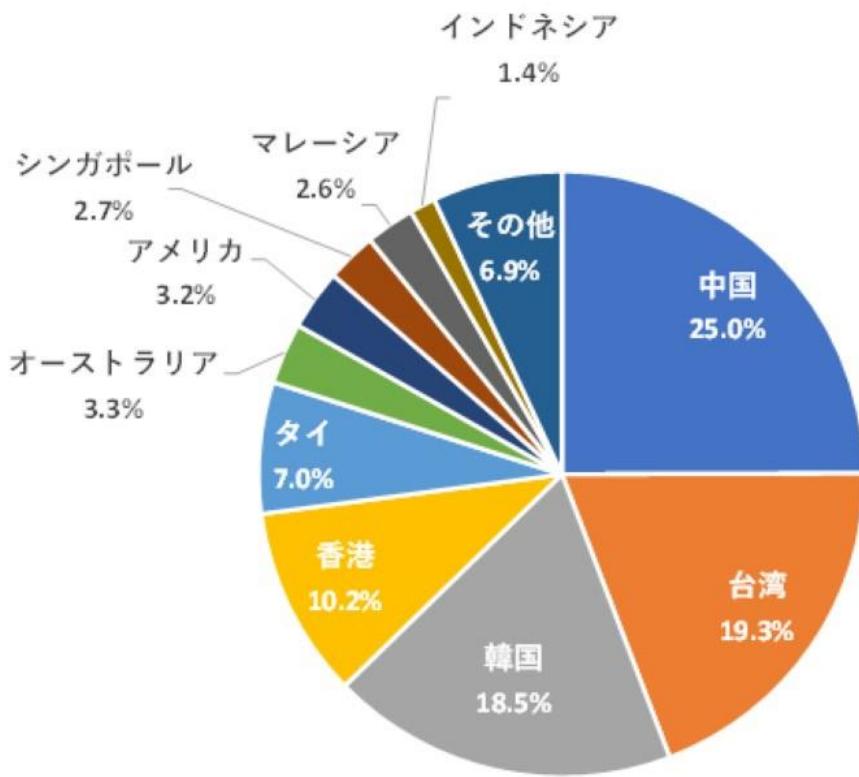


道内全域の観光実態

道内全域の観光人口

- ・2019年の北海道における年間の観光人口は中国が最も多く全体の25.0%を占め、次いで、台湾、韓国、香港と続き、上位4カ国かつ東アジアの国・地域で全体の約4分の3を占める。
- ・欧米豪からの来道者は、オーストラリアが最も多く全体の3.3%、次いでアメリカの3.2%、カナダの0.7%と続く。

●国・地域別の観光人口の比率（年間）



●国・地域別の観光人口（年間）

順	国・地域	人数	割合	累積割合
1	中国	5,238,809	25.0%	25.0%
2	台湾	4,042,356	19.3%	44.2%
3	韓国	3,884,536	18.5%	62.7%
4	香港	2,142,885	10.2%	72.9%
5	タイ	1,471,433	7.0%	79.9%
6	オーストラリア	684,566	3.3%	83.2%
7	アメリカ	676,981	3.2%	86.4%
8	シンガポール	562,615	2.7%	89.1%
9	マレーシア	548,177	2.6%	91.7%
10	インドネシア	290,688	1.4%	93.1%
11	フィリピン	245,137	1.2%	94.3%
12	カナダ	138,377	0.7%	94.9%
13	イギリス	117,073	0.6%	95.5%
14	ロシア	68,374	0.3%	95.8%
15	ベトナム	34,224	0.2%	96.0%
16	ニュージーランド	24,506	0.1%	96.1%
17	ドイツ	24,127	0.1%	96.2%
18	スウェーデン	21,740	0.1%	96.3%
19	その他	778,326	3.7%	100.0%
—	計	20,994,930	100.0%	-

出典：モバイル空間統計

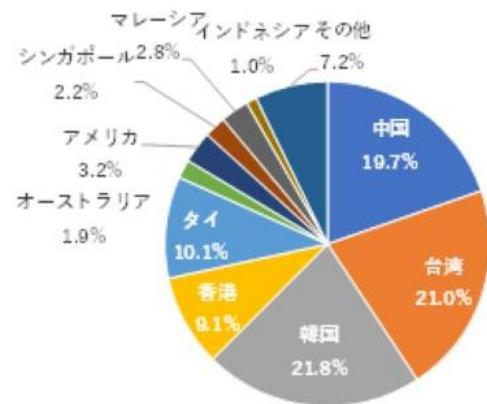
※国・地域別に道内市区町村への日別訪問者数を累積しているが、一定サンプル数以上データが取得できた場合にのみ国・地域別の判別を行っているため、その他にはサンプル数が少なく国・地域の判別ができなかったデータも含まれる

道内全域の季節別観光人口

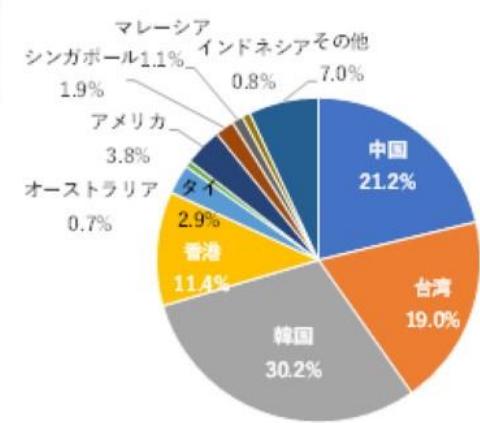
- ・2019年は、春と夏が韓国、秋と冬が中国からの来訪割合が最も高い。
- ・全市場に占める中国からの来訪割合は秋と冬が高い。台湾は秋が高く、冬が低い。韓国は秋が4.0%と低く（※1）、香港は比較的年間を通じて全市場に占める来訪割合の変動は少ない。タイとオーストラリアは夏が低く、また、オーストラリアは冬が最も高い。

（※1）2019年7月頃からの日韓情勢による影響の可能性があることに留意されたい

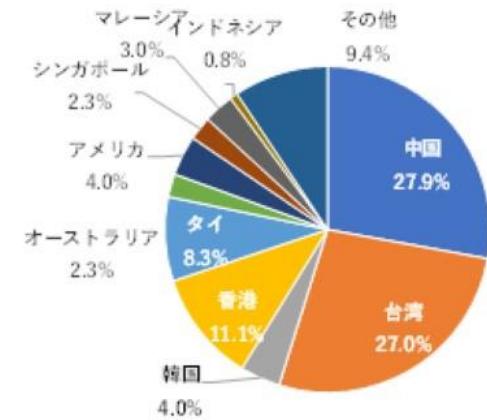
期間	春：3-5月
観光人口	4,088,303



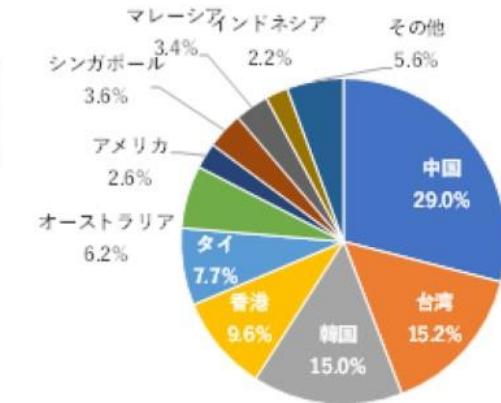
期間	夏：6-8月
観光人口	5,534,981



期間	秋：9-11月
観光人口	3,442,192



期間	冬：1,2,12月
観光人口	7,929,454



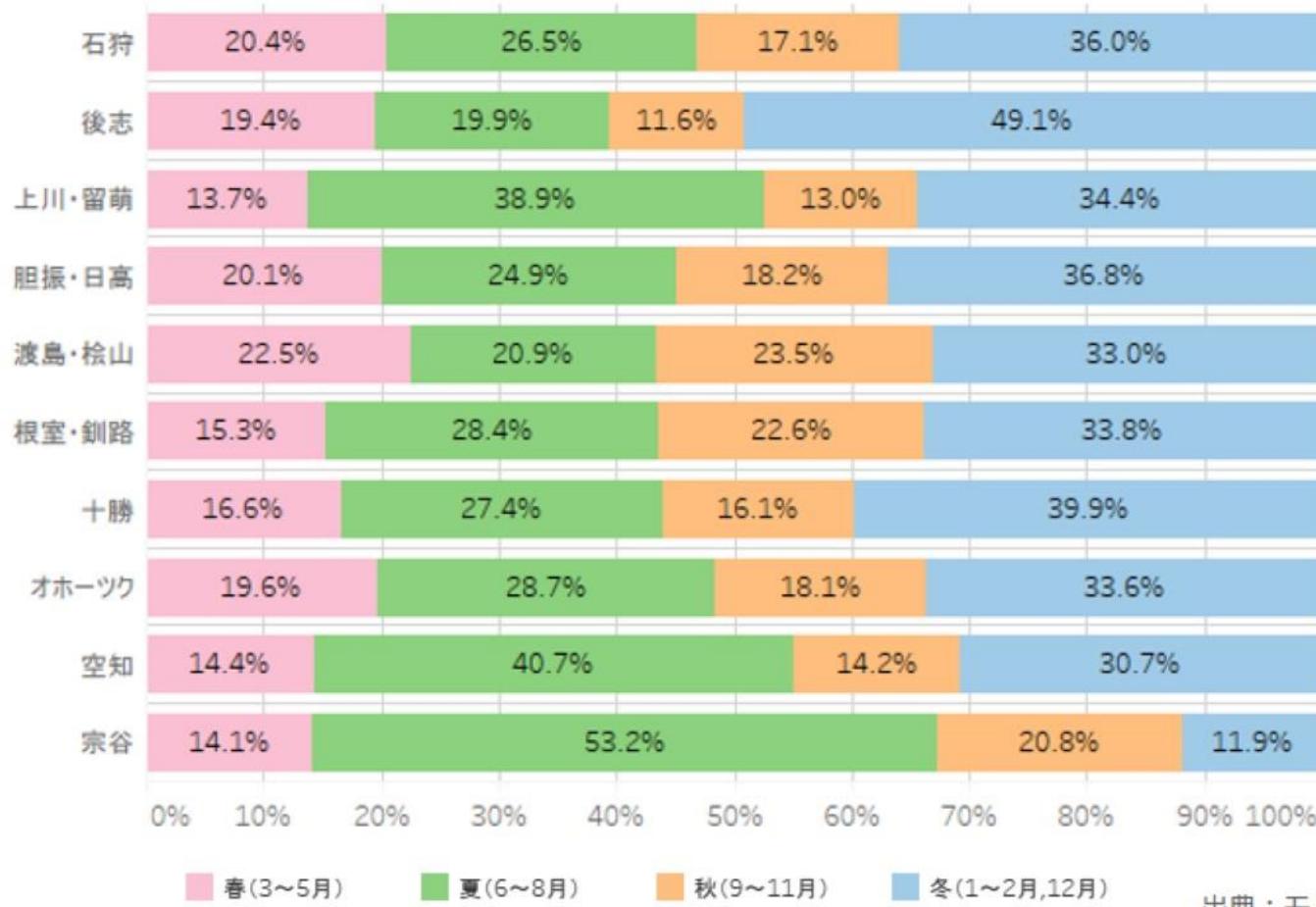
出典：モバイル空間統計

※国・地域別に道内市区町村への日別訪問者数を累積しているが、一定サンプル数以上データが取得できた場合にのみ国・地域別の判別を行っているため、その他にはサンプル数が少なく国・地域の判別ができなかったデータも含まれる

エリア区分別の季節別観光人口(全国籍)

- ・全道を通して夏と冬の来訪が多く、春と秋が少ない。
- ・エリア別に季節別の観光人口を見ると、7つのエリアで冬が最も多く、全体の3～5割程度を占めているが、上川・留萌、空知、宗谷エリアは夏が最も多い。特に、宗谷エリアについては、他エリアと比較して冬の割合が低いことが顕著である。

●エリア区分別 季節別割合 (全国籍)

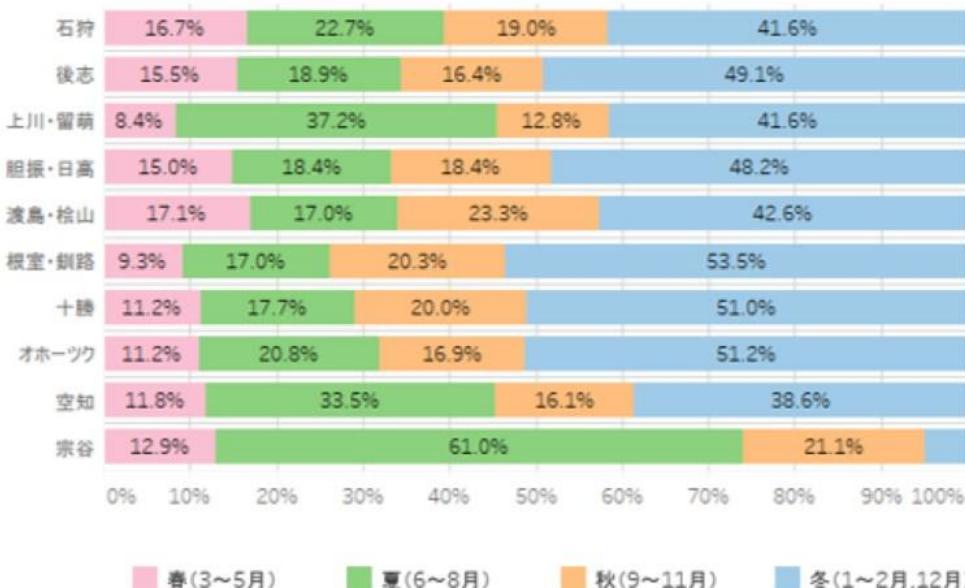


出典：モバイル空間統計

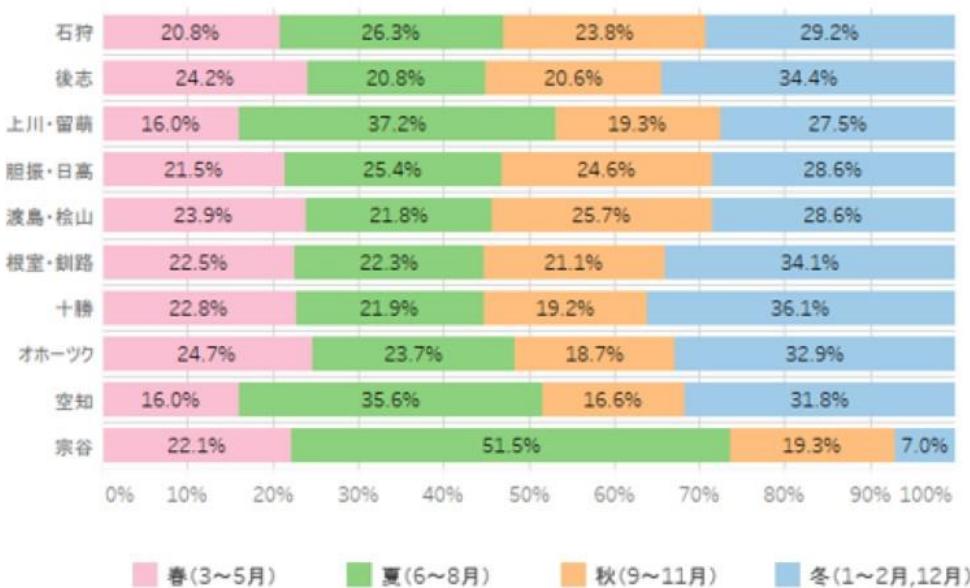
エリア区分別の季節別観光人口(中国、台湾)

- ・中国は、宗谷エリアを除く9つのエリアで冬の観光人口が最も多く、4～5割程度と他の国籍と比較して高くなっている。宗谷エリアは夏が最も多く、また、上川・留萌、空知エリアも夏の割合が他のエリアと比較的して高い。
- ・台湾は、宗谷を除く9つのエリアで冬が最も多く、3割程度となっているが、割合の偏りが少なく、一年を通して来訪されている。

●エリア区分別 季節別割合 (中国)



●エリア区分別 季節別割合 (台湾)

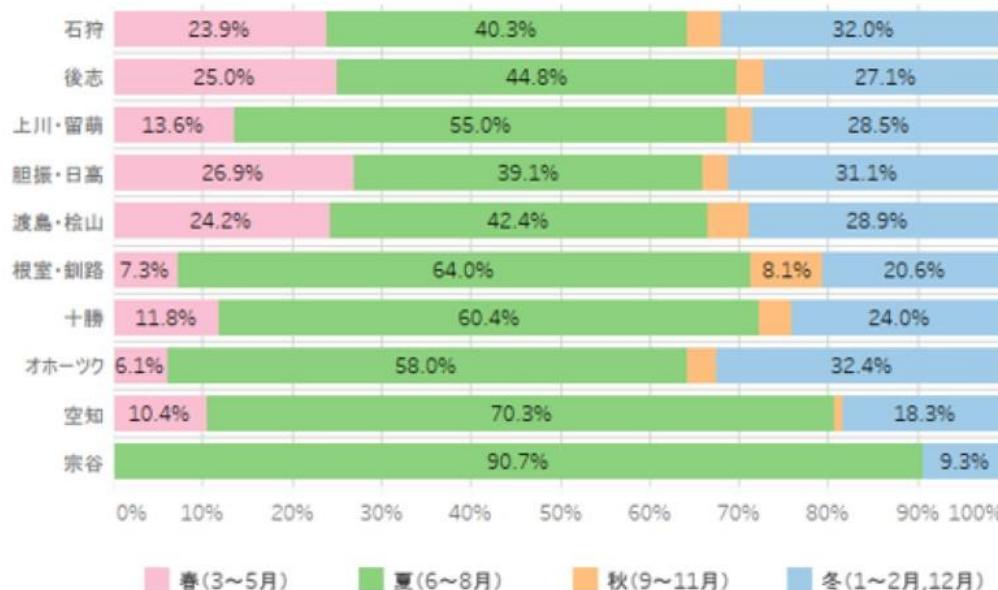


出典：モバイル空間統計

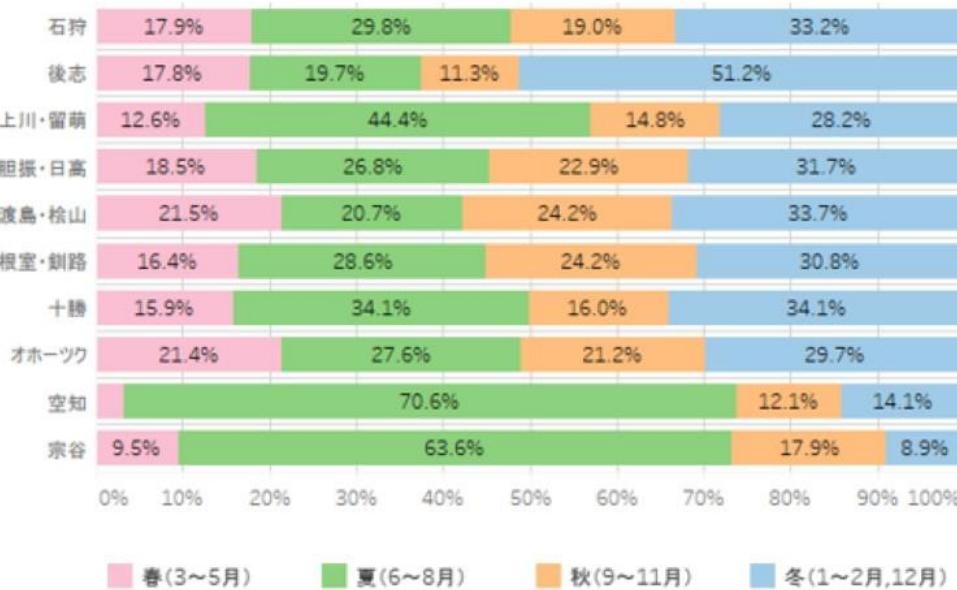
エリア区分別の季節別観光人口(韓国、香港)

- ・韓国は、秋の訪問が極端に少なく、春や夏の来訪が多くなっているが、これは日韓情勢により訪日客が減少したことが影響していると考えられる。
- ・香港は、夏や冬が多い傾向にあり、後志エリアでは約半分が冬に来訪している。また、空知エリアと宗谷エリアでは夏が多く6~7割程度となっている。

●エリア区分別 季節別割合 (韓国)



●エリア区分別 季節別割合 (香港)

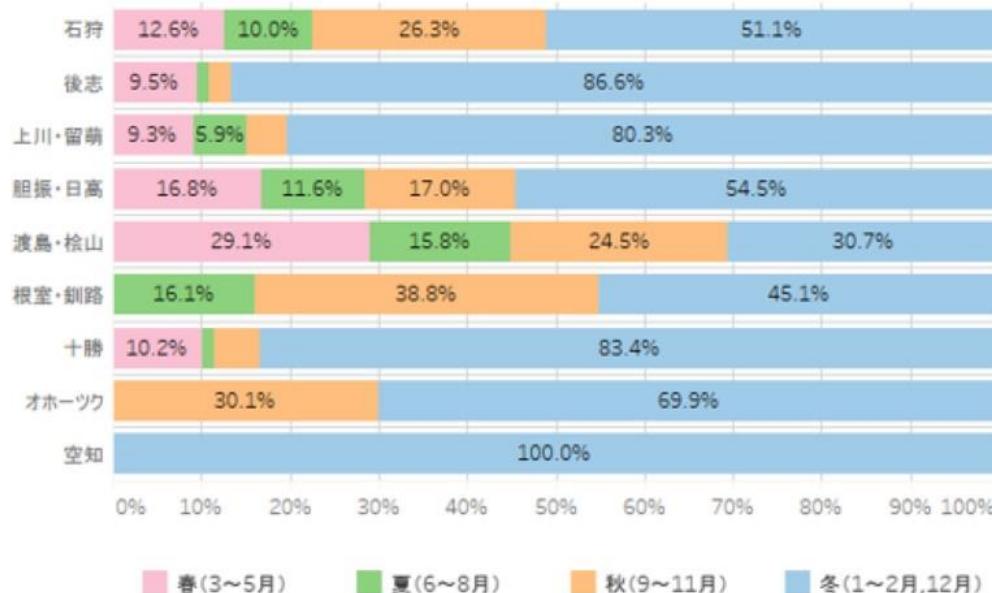


出典：モバイル空間統計

エリア区分別の季節別観光人口(オーストラリア、アメリカ)

- ・オーストラリアは、他の国・地域と比較して冬の来訪が多く、5割を超えるエリアが7つあり、後志、上川・留萌、十勝エリアでは8割を超える。
- ・アメリカは、後志エリアを除き、夏の来訪が最も多く、特に上川・留萌、宗谷、空知エリアではその偏りが大きい。一方で、後志エリアでは約6割が冬となっている。

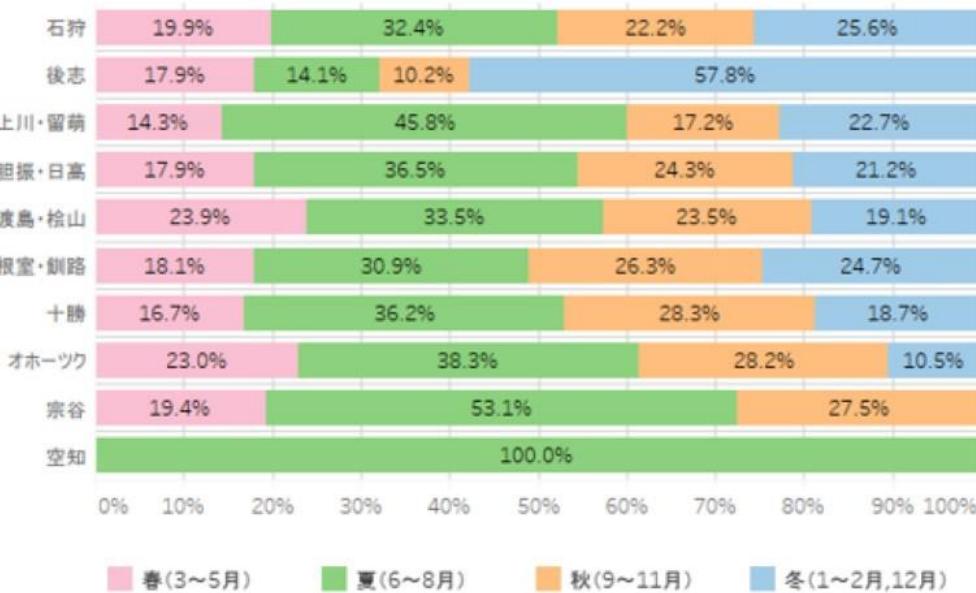
●エリア区分別 季節別割合 (オーストラリア)



※宗谷エリアはサンプルが得られなかったため除外

※空知エリアはサンプル数が少なかったため、冬が100%となっている

●エリア区分別 季節別割合 (アメリカ)

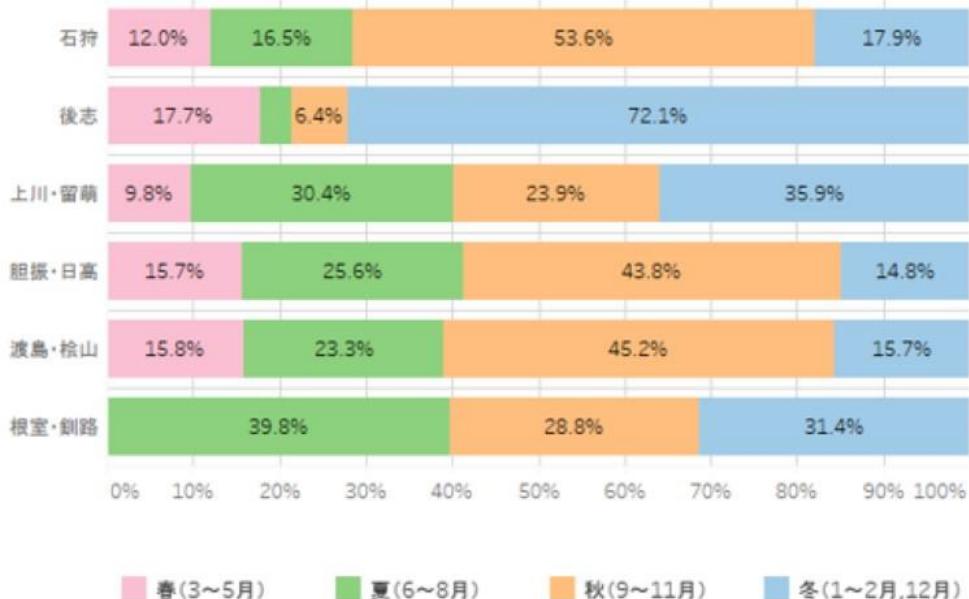


※空知エリアはサンプル数が少なかったため、夏が100%となっている

エリア区分別の季節別観光人口(イギリス、ロシア)

- ・イギリスは、石狩、胆振・日高、渡島・檜山エリアにおいては4～5割が秋の来訪となっており、他の国・地域と比較してもこれらのエリアの秋の来訪割合が高い。
- ・ロシアは、石狩エリアはやや春の来訪が多く、後志エリアはやや冬の来訪が多いものの、どちらのエリアも季節による偏りが少ない。

●エリア区分別 季節別割合 (イギリス)



※十勝、オホーツク、宗谷、空知エリアはサンプルが得られなかったため除外

●エリア区分別 季節別割合 (ロシア)



※上川・留萌、十勝、オホーツク、宗谷、空知エリアはサンプルが得られなかったため除外

※渡島・檜山、根室・釧路エリアはサンプル数が少なかったため、それぞれ秋と春が100%となっている

エリア別の観光実態

エリア区分 :

- ・ 上川・留萌エリア（旭川空港エリア）
- ・ 釧路・根室エリア（釧路空港エリア）
- ・ オホーツクエリア（女満別空港エリア）
- ・ 空知・石狩・胆振・日高・後志エリア（新千歳空港エリア）
- ・ 十勝エリア（帯広空港エリア）
- ・ 宗谷エリア（稚内空港エリア）
- ・ 渡島・檜山エリア（函館空港エリア）

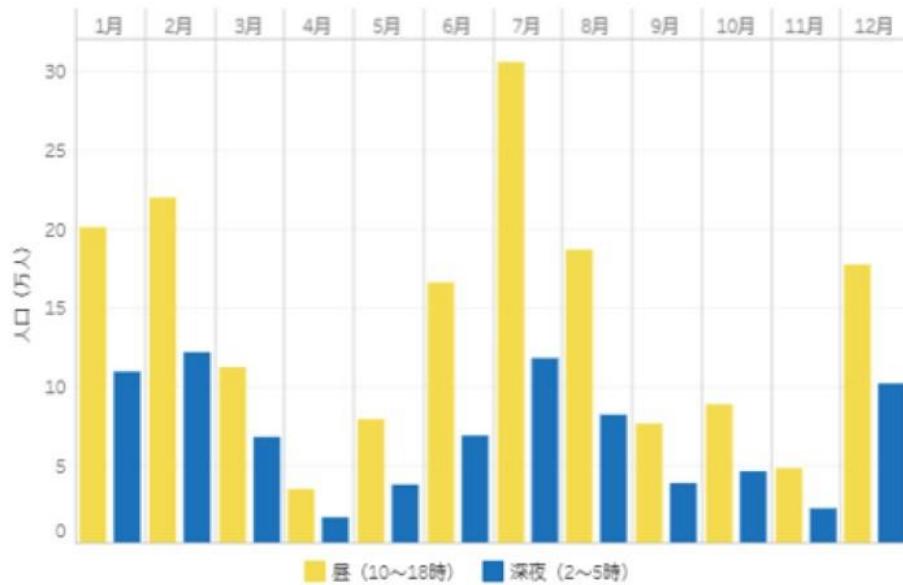
上川・留萌エリア（旭川空港エリア）

上川・留萌エリアの観光人口

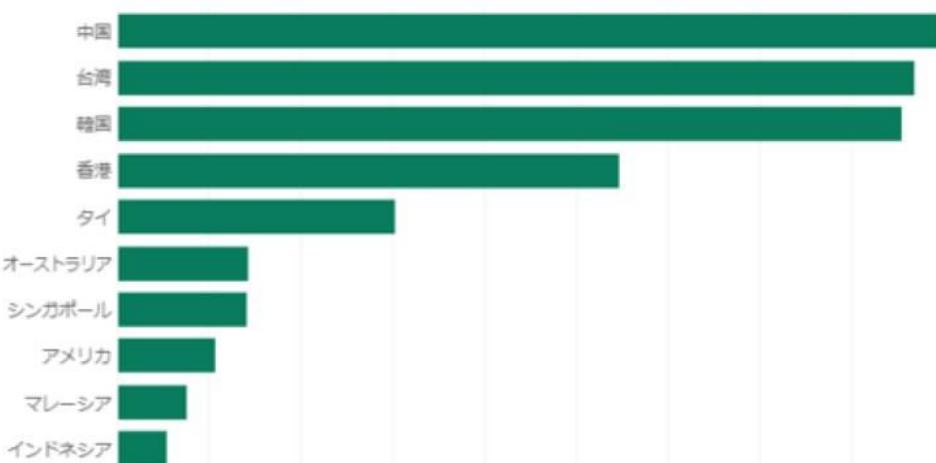
- ・7月が最も多く、次いで2月、1月、12月と多い。夏と冬に来訪されているが、4-5月や9-11月の春、秋は少ない。
- ・中国が最も多い他、台湾や韓国も同程度来訪しており、次いで香港、タイと続く。

●月別観光人口

年間延べ観光人口：2,105,362人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）

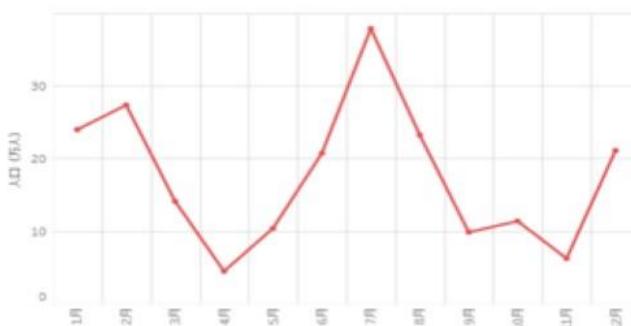


上川・留萌エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

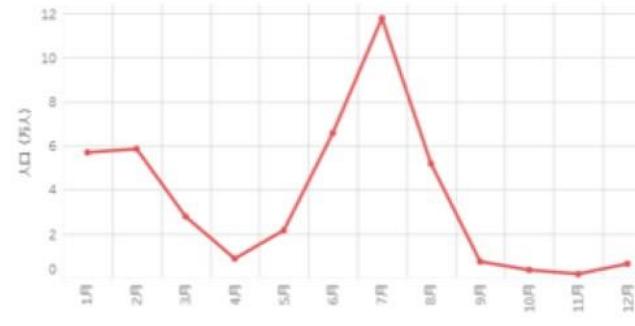
全国籍では7月が最も多く、次いで2月、1月、12月と続く。また4月や11月は来訪者が少ない。

上位5か国・地域別に見ると、全国籍の傾向と同様であるが、タイは2月に最も多く、次いで3月、12月に来訪者が多い。

全国籍



韓国



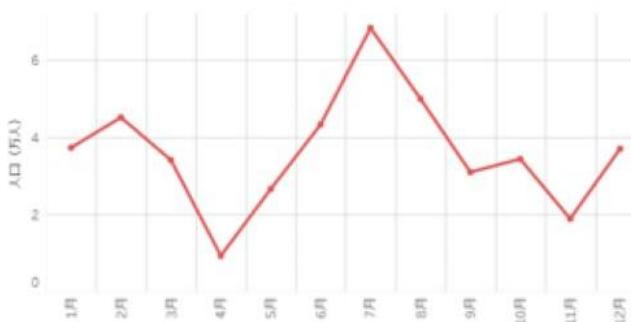
中国



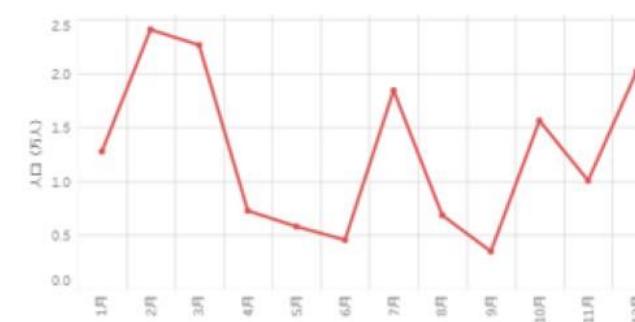
香港



台湾



タイ



出典：モバイル空間統計

上川・留萌エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

富良野・美瑛・旭川を結ぶ国道237号や札幌から旭川を結ぶ函館本線、国道12号を多く利用している様子が伺える他、根室本線や国道452号も利用されている。

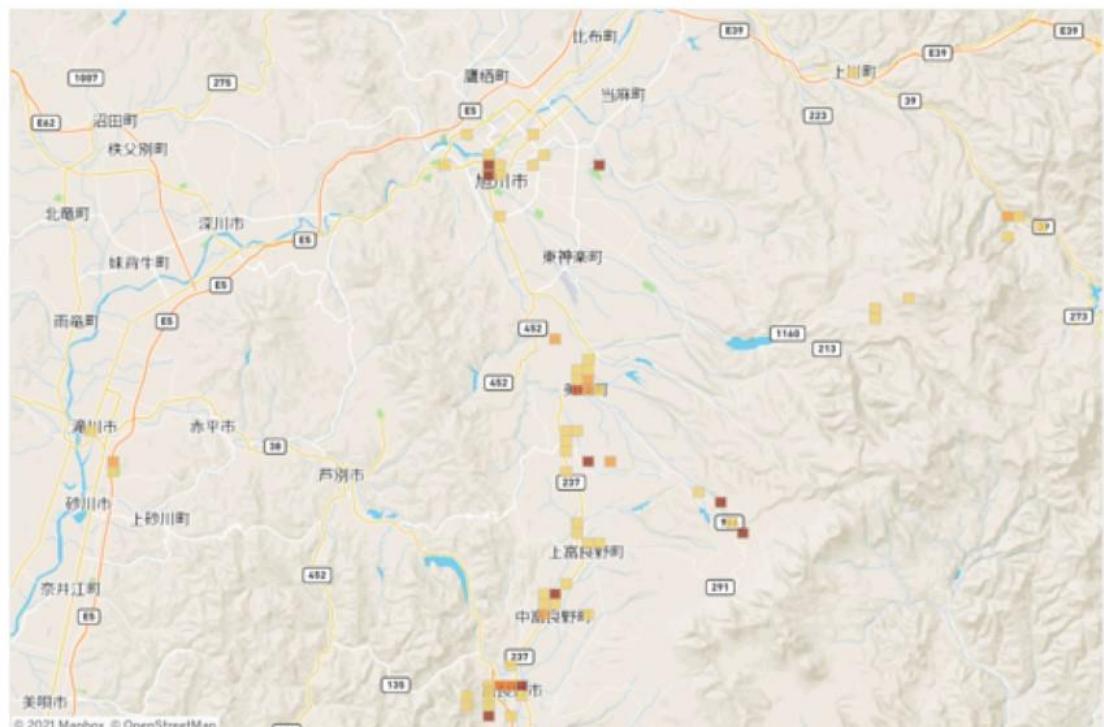


出典：インパウンドGPSデータ

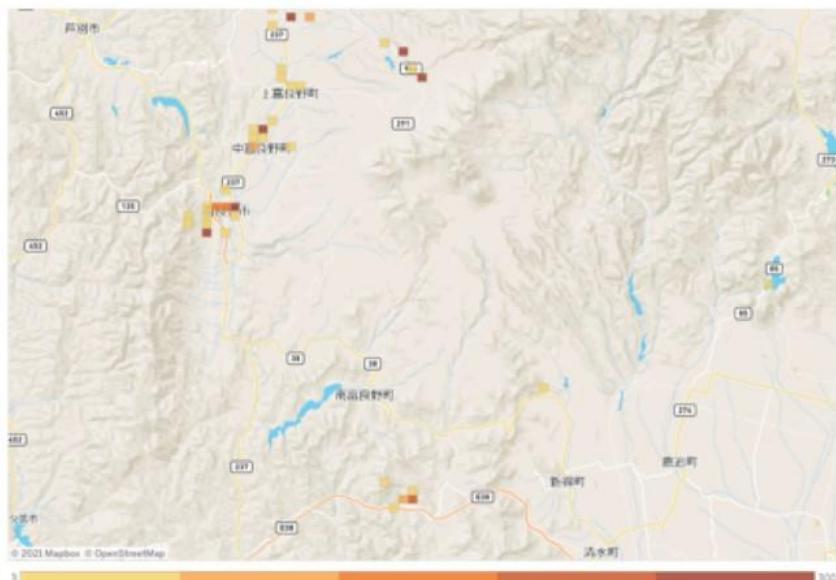
上川・留萌エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

- ・上川中南部では、旭川市街や旭山動物園、層雲峡温泉、美瑛駅、上富良野駅、富良野駅周辺、青い池、白金温泉などに滞在している様子が伺えた。
- ・上川南部では、トマムのスキー場での滞在が確認できた。
- ・留萌エリアや上川北部では滞在が確認できなかった。

●上川中南部

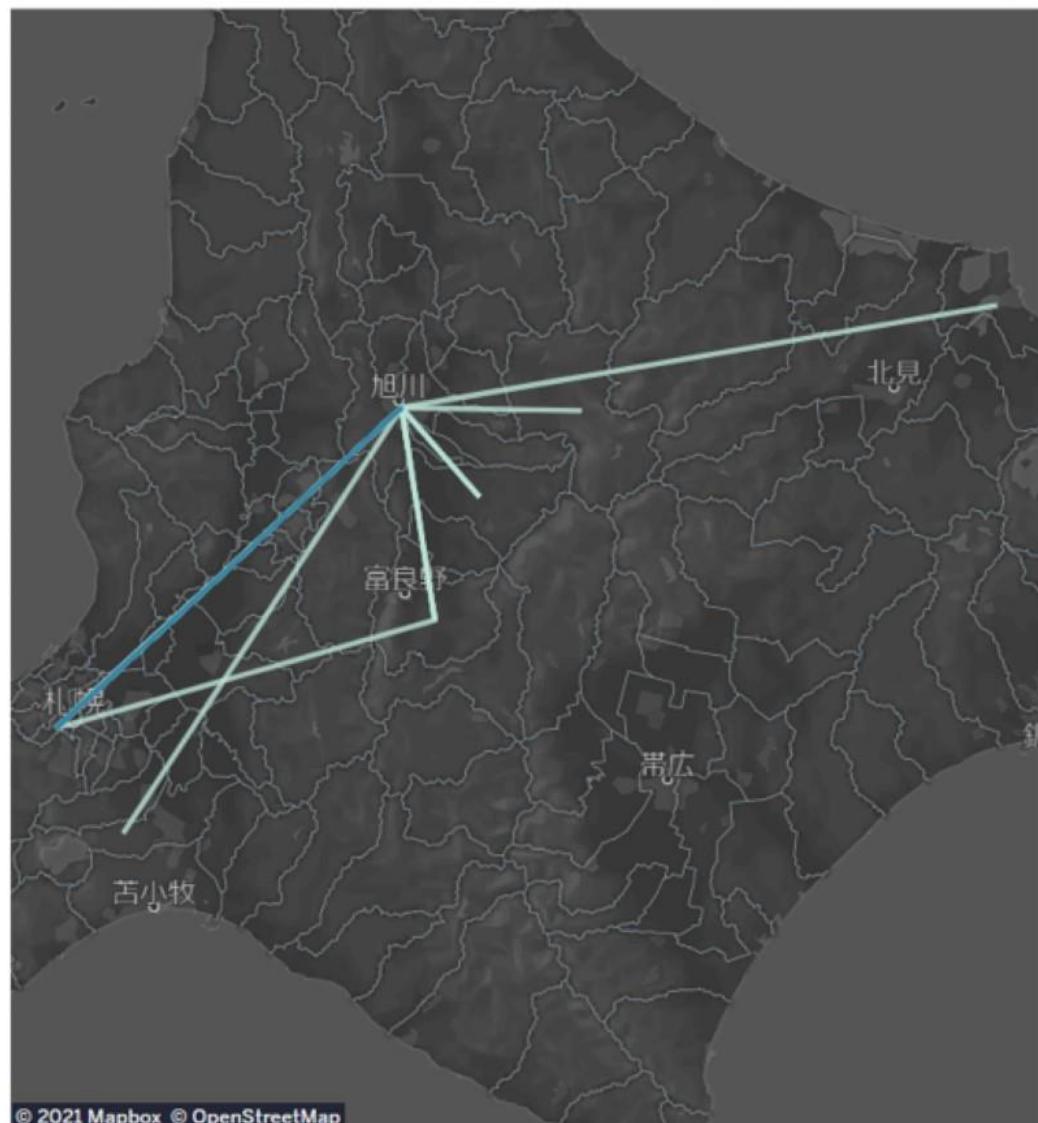


●上川南部



上川・留萌エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

旭川市から札幌市中央区への移動やその反対方向の移動が多くなっており、24時間以内に旭川市と札幌市中央区を往復する人数も多くなっている。



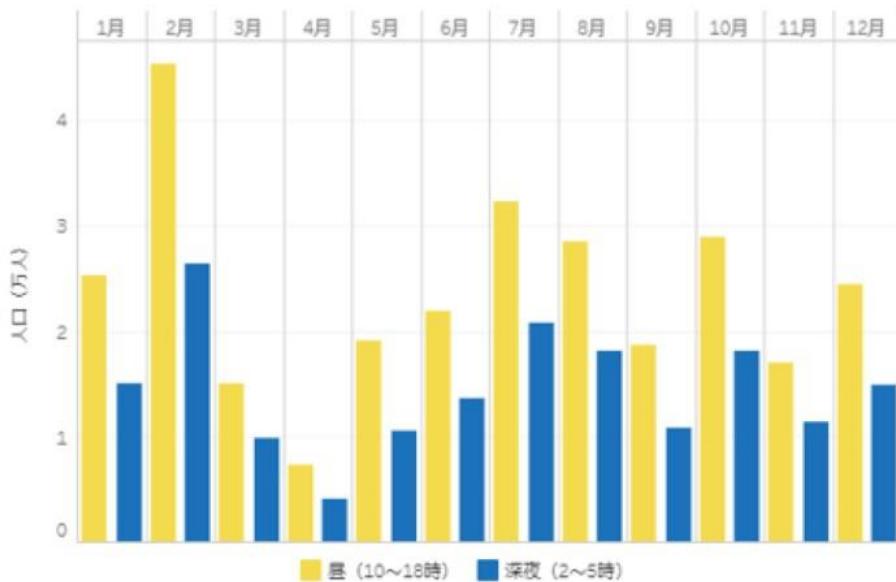
釧路・根室エリア（釧路空港エリア）

釧路・根室エリアの観光人口

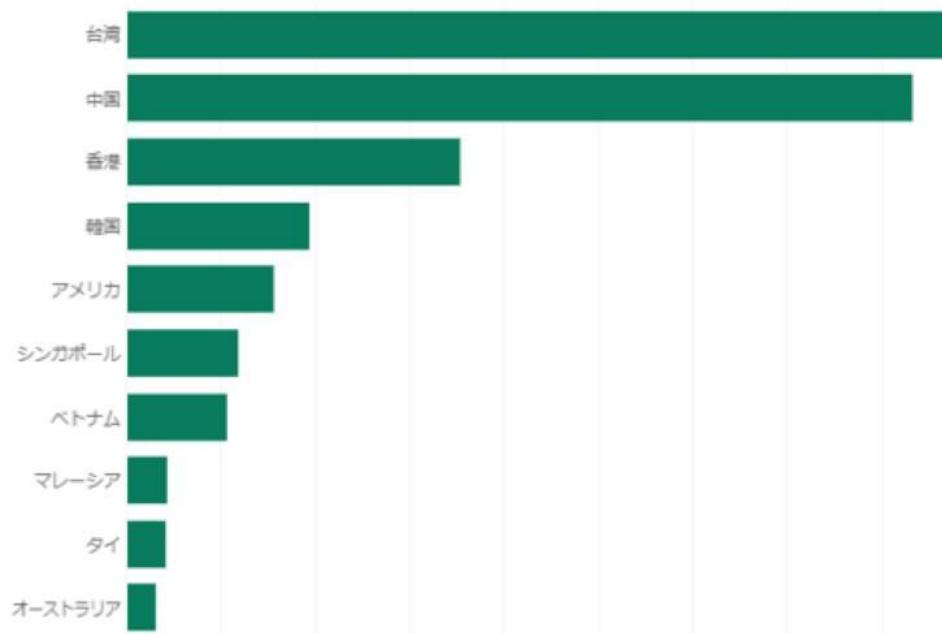
- ・2月が最も多く、次いで7月、10月と来訪者が多いが、3-4月の春は少ない。
- ・台湾が最も多い他、中国も同程度来訪しており、次いで香港、韓国、アメリカと続く。

●月別観光人口（釧路・根室エリア）

年間延べ観光人口：353,969人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）



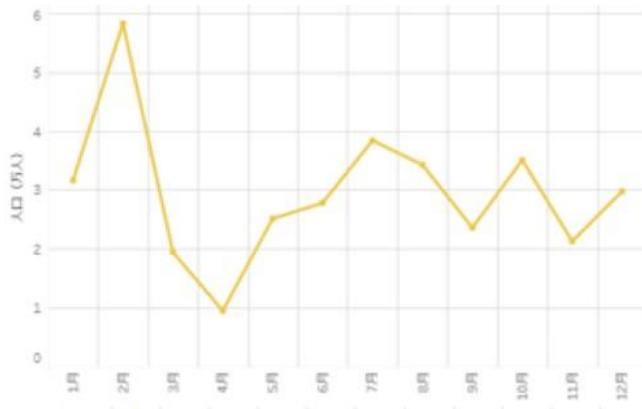
出典：モバイル空間統計

釧路・根室エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

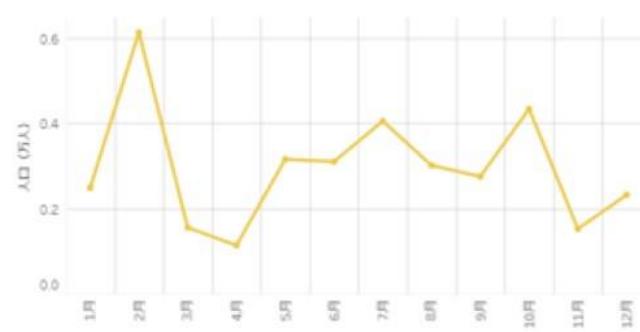
全国籍では2月が最も多く、次いで7月、10月、1月と続く。また4月は来訪者が少ない。

国・地域別では、中国が冬（特に2月）に極端な偏りが見られる。韓国は夏（7-8月）に偏っており、他の国・地域と傾向が異なる。

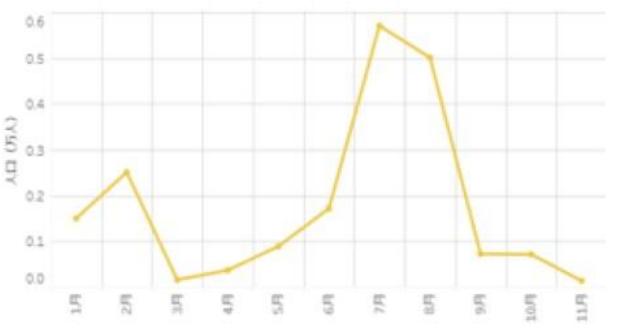
全国籍



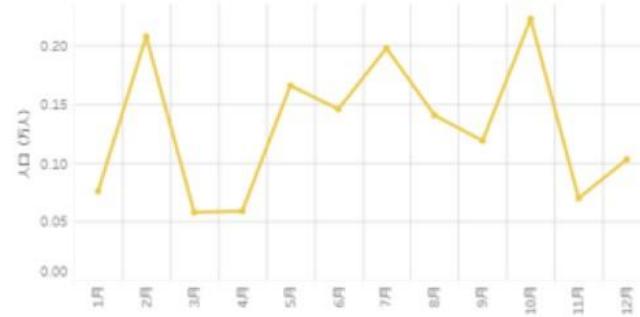
香港



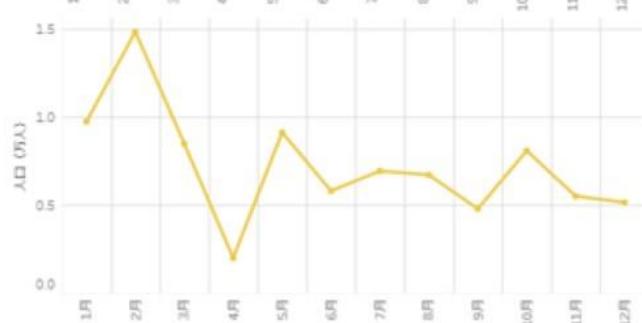
韓国



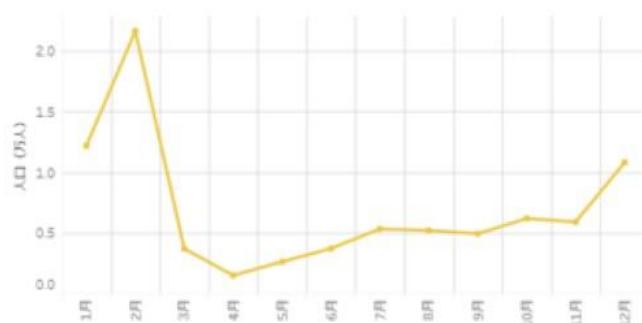
アメリカ



台湾



中国



出典：モバイル空間統計

釧路・根室エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

釧路市外や釧路湿原駅までの釧網本線や国道391号、帯広方面への国道240号を利用している他、阿寒湖市街や屈斜路湖、摩周湖周辺道路を利用している様子が伺えた。



出典：インバウンドGPSデータ

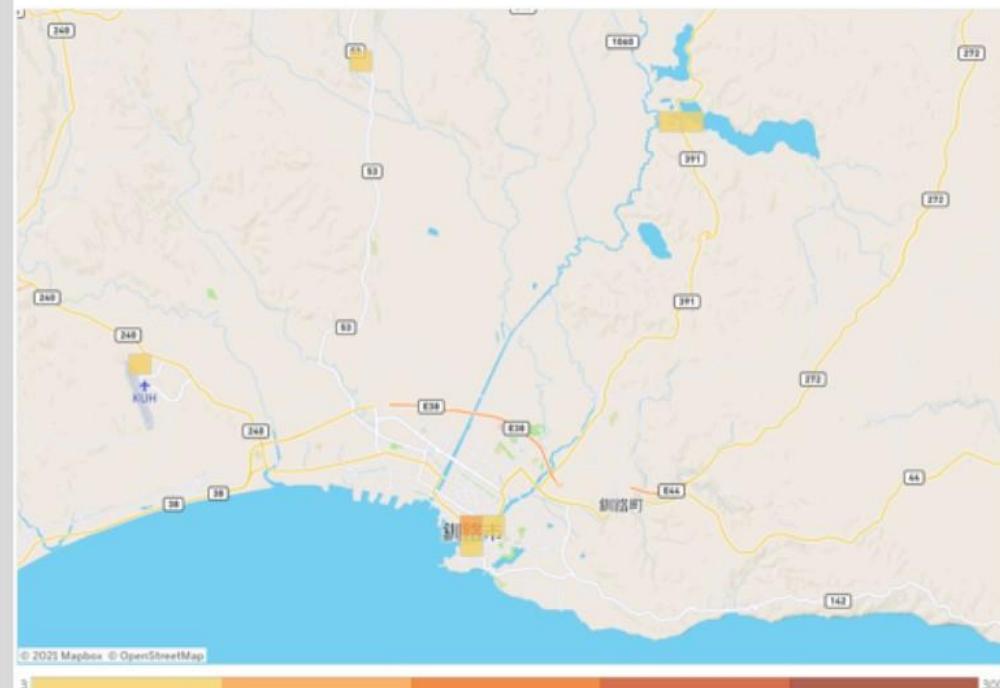
釧路・根室エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

釧路エリアでは、釧路市街の他、釧路空港や鶴見台、塘路駅や北海道集治監釧路分監本館が所在するメッシュで滞在が確認できた。

また、阿寒湖市街や屈斜路湖・摩周湖周辺での滞在も確認できた。

根室エリアでの滞在は確認できなかった。

●釧路市街、塘路湖周辺

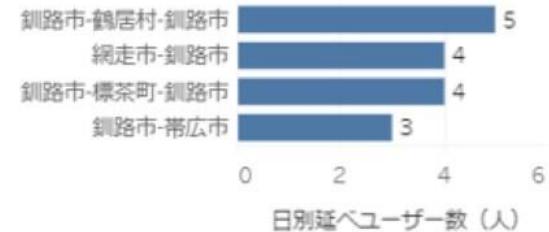
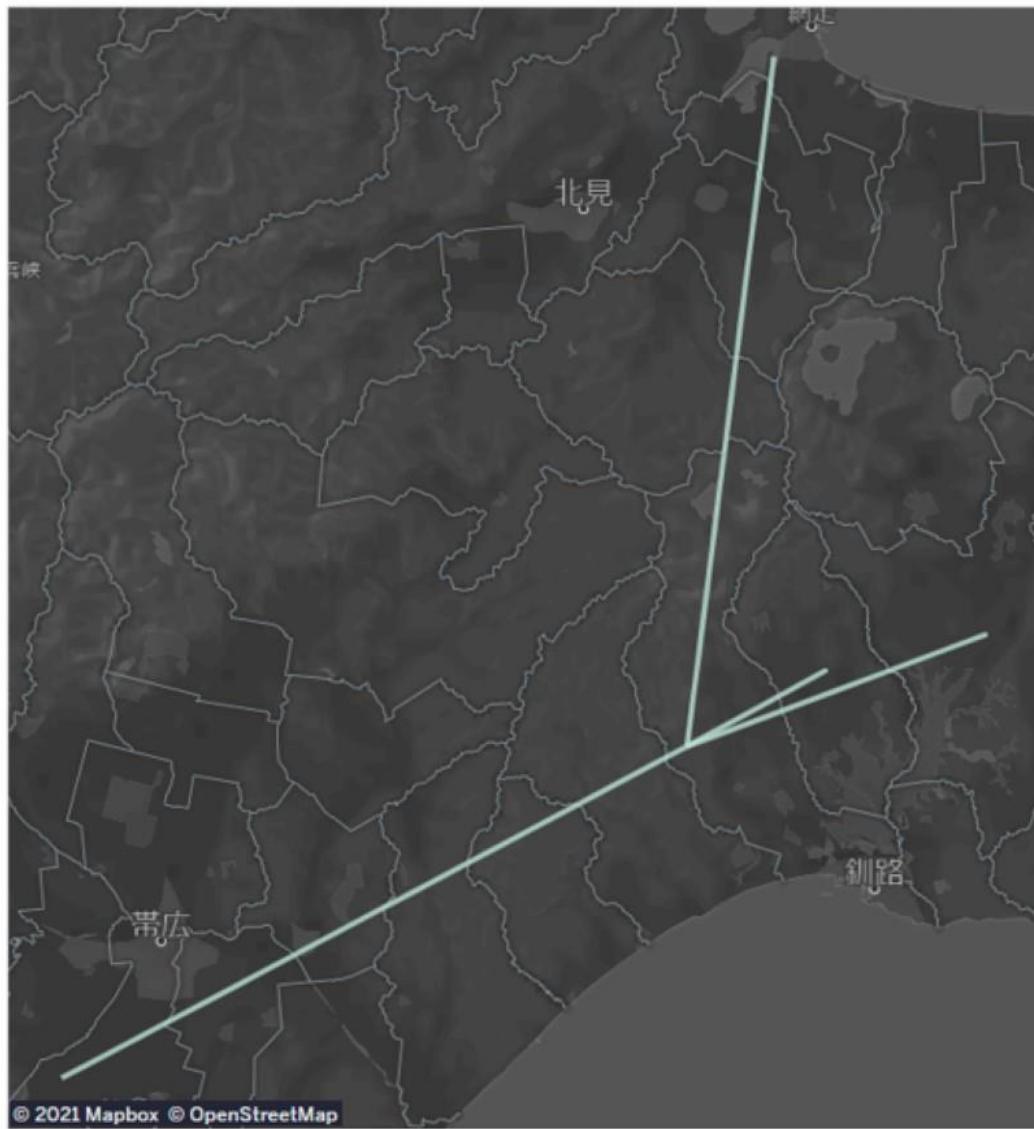


●阿寒・摩周・屈斜路湖周辺



釧路・根室エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

観測できた人数は少ないが、釧路市と鶴居村、標茶町、帯広市を移動する観光客が確認できた。



出典：インバウンドGPSデータ

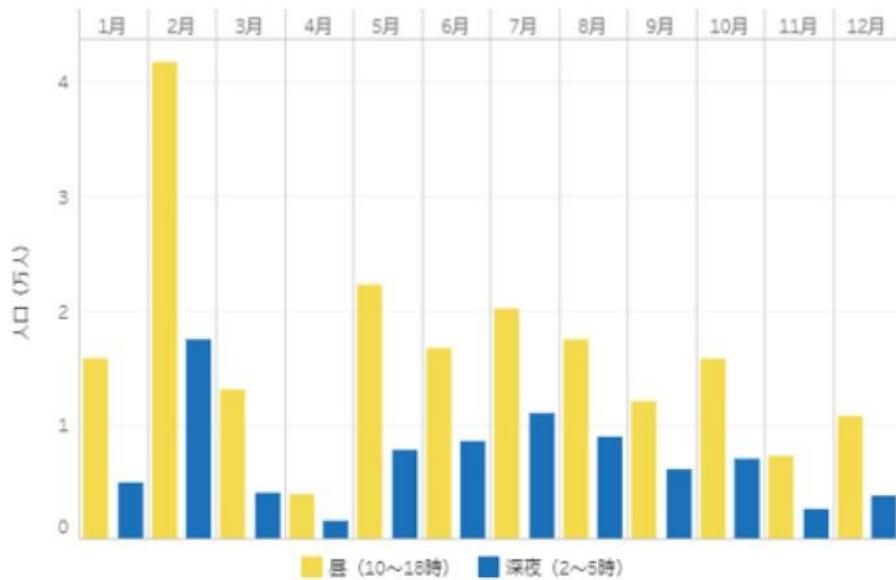
オホーツクエリア（女満別空港エリア）

オホーツクエリアの観光人口

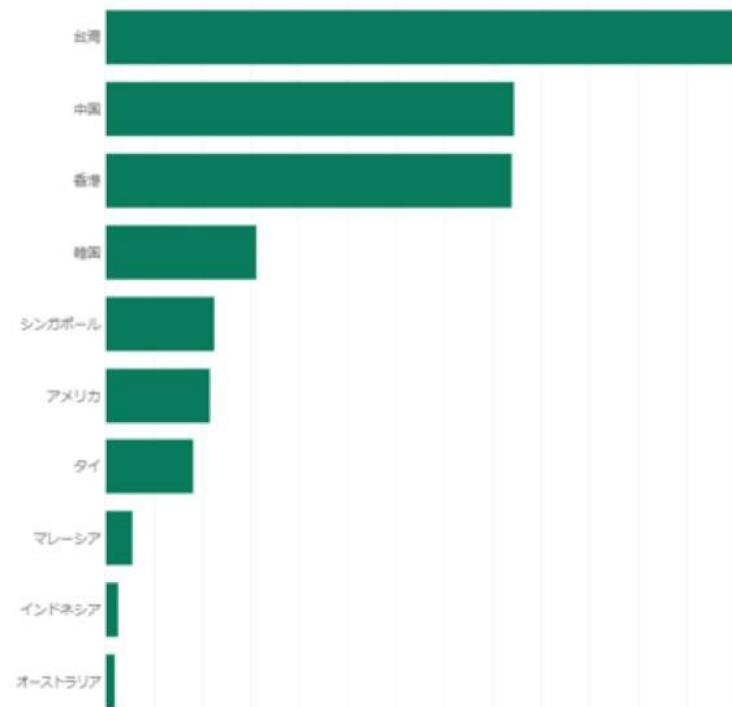
- ・2月が最も多く、次いで5月、7月に多く来訪されているが、4月や11月は少ない。
- ・台湾が最も多く、次いで中国、香港が同程度、韓国、シンガポール、アメリカと続く。

●月別観光人口（オホーツクエリア）

年間延べ観光人口：243,830人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）



出典：モバイル空間統計

オホーツクエリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

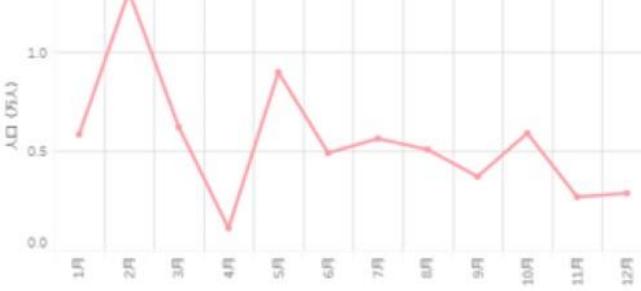
全国籍では2月が最も多い。次いで5月が多く、11月にかけて減少傾向にある。

上位5か国・地域別に見ると、中国は2月に集中しており、韓国は2月、7月、8月が多い他、シンガポールは、5月、6月が多くなっている。

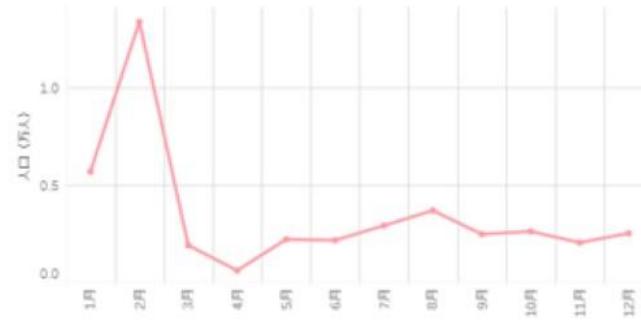
全国籍



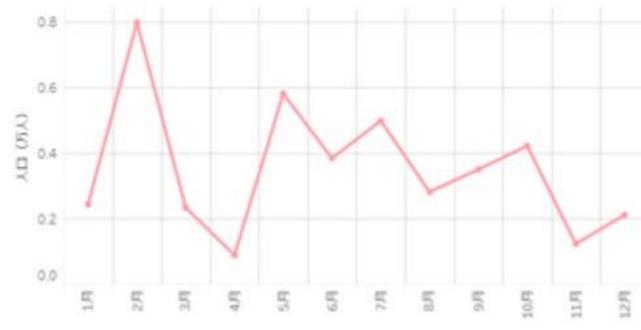
台湾



中国



香港



韓国



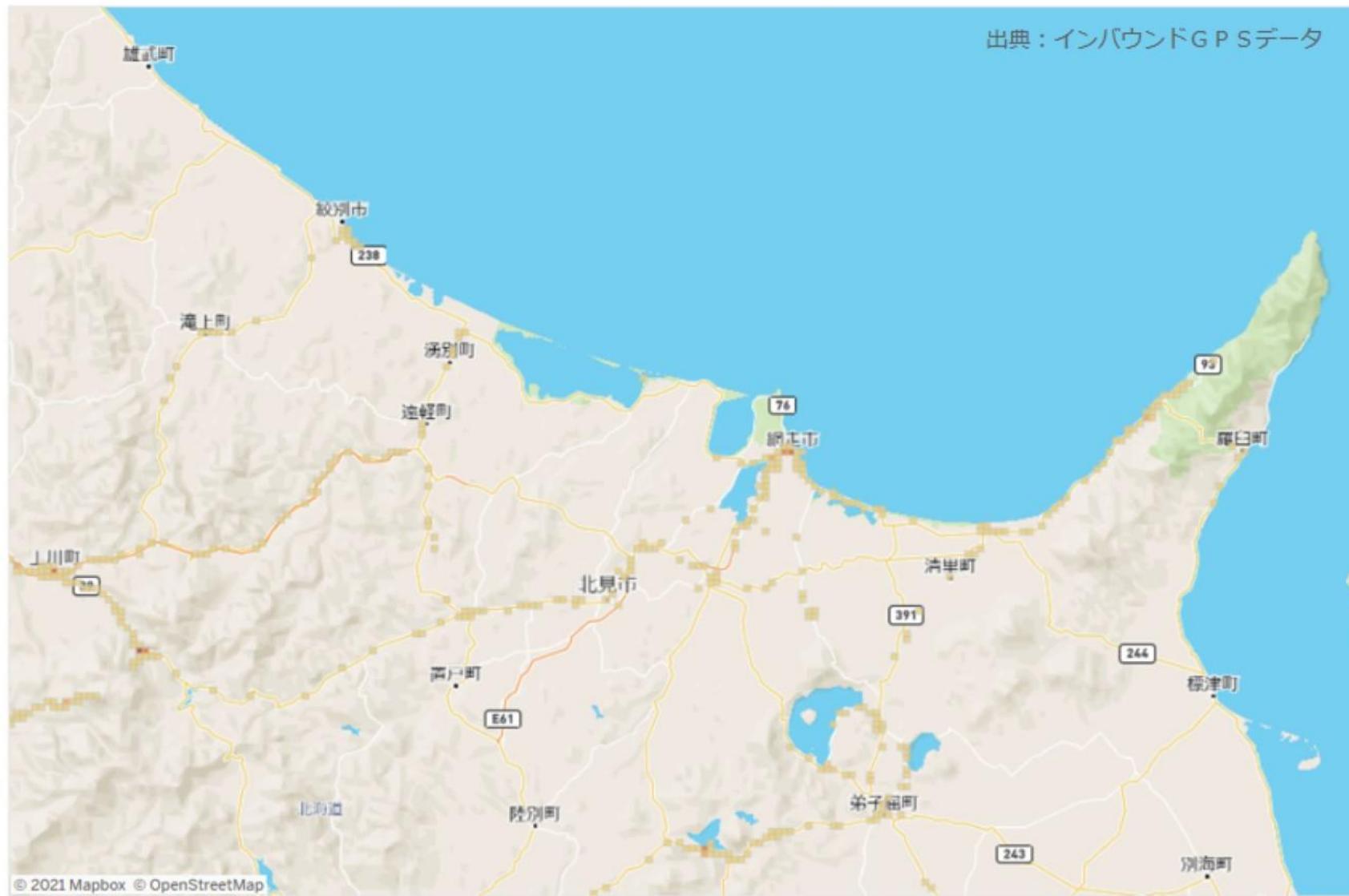
シンガポール



出典：モバイル空間統計

オホーツクエリア | 測位1kmヒートマップ（全国籍）

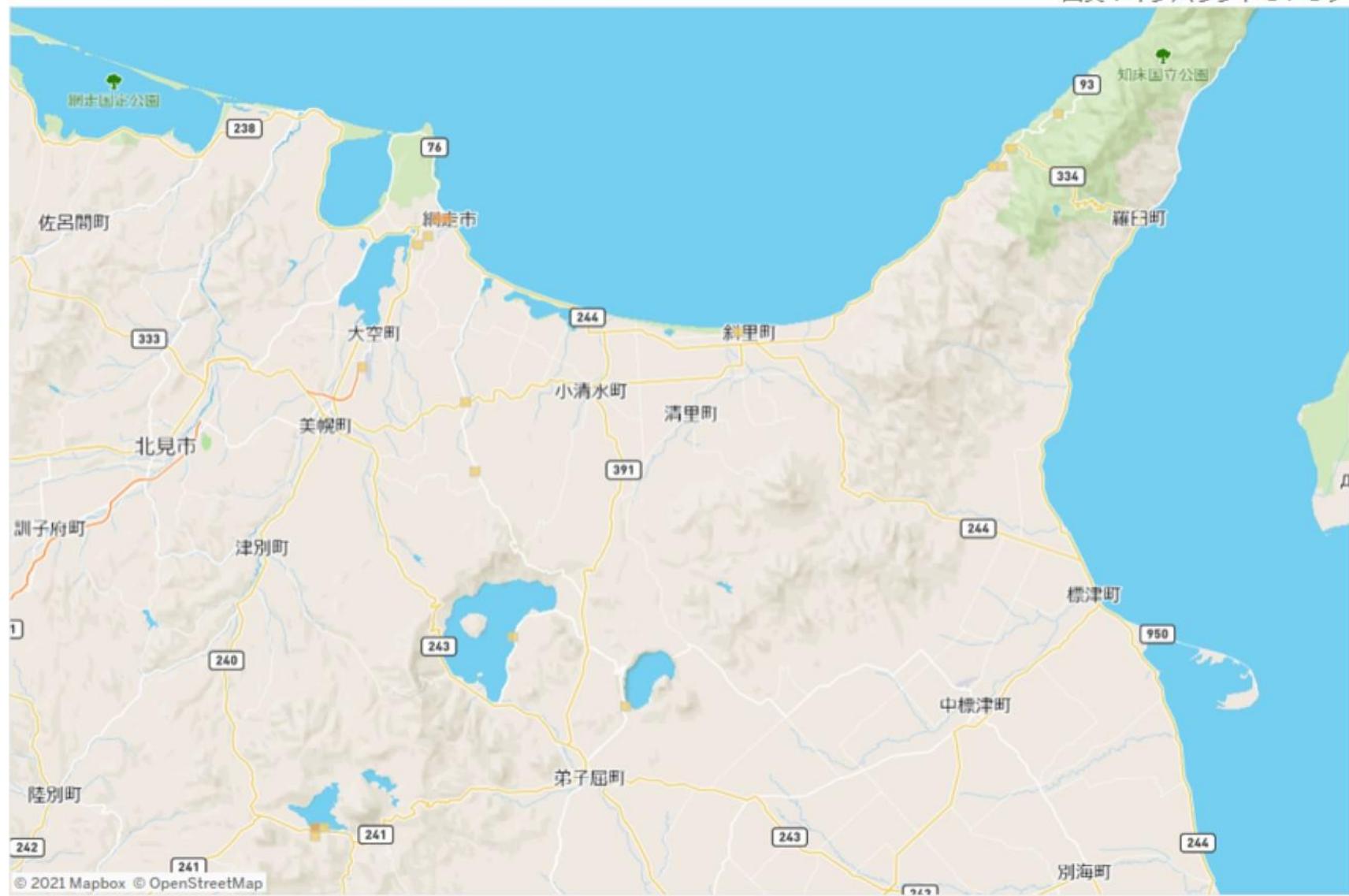
網走市外と女満別空港、上川町方面を結ぶ国道39号や網走市外からウトロを結ぶ国道334号を移動する様子が確認できた他、上川町と遠軽町を結ぶ旭川紋別自動車道や石北本線を利用している様子も確認できた。



オホーツクエリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

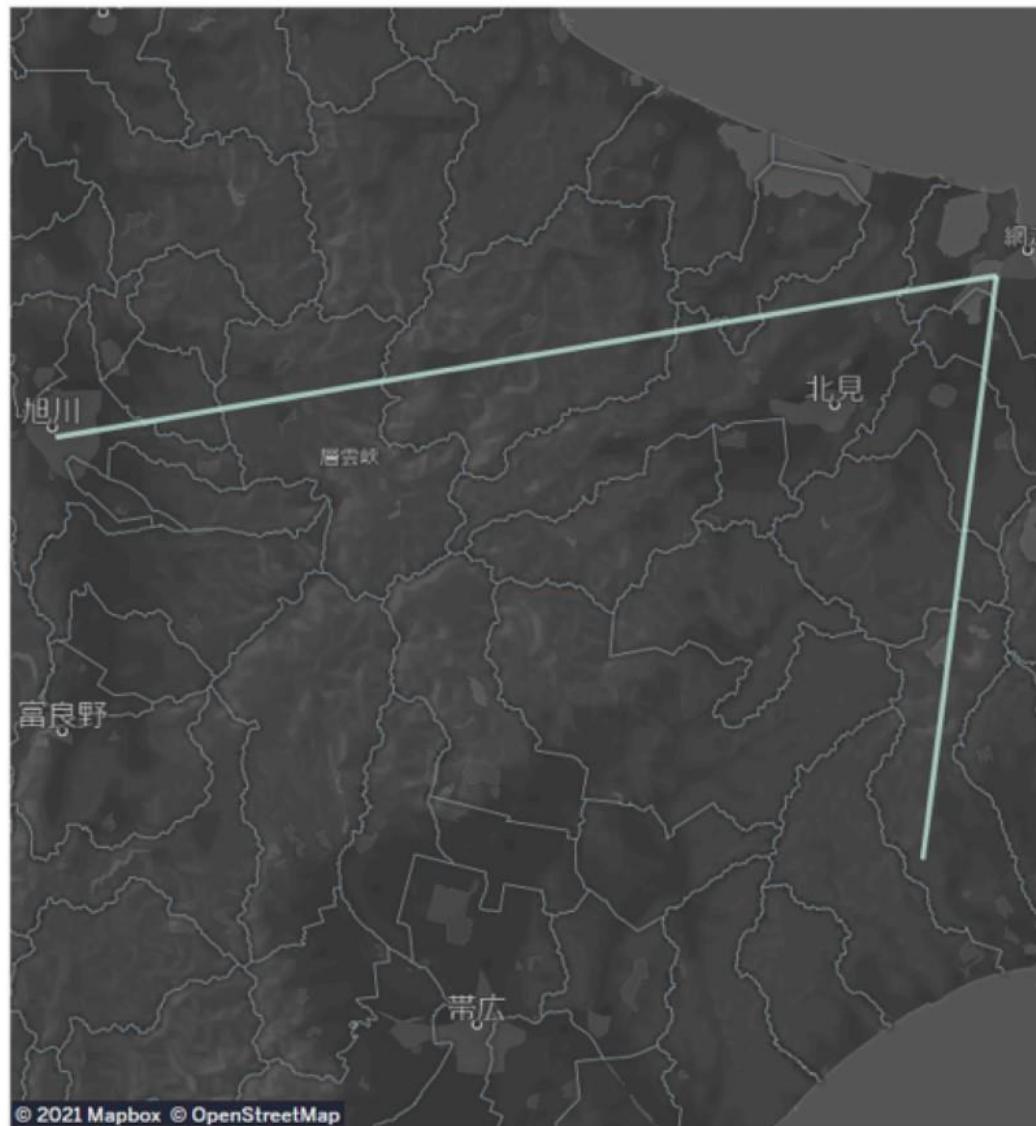
網走市街や女満別空港、オホーツク流氷館、網走監獄、道の駅 ノンキーランドひがしもこと、ひがしもこと芝桜公園、知床斜里駅、ウトロ市街、知床自然センター、知床五湖などで滞在が確認できた。

出典：インバウンドG P Sデータ



オホーツクエリア | 24時間以内の動態（全国籍）

観測できた人数は少ないが、釧路市と網走市、旭川市と網走市を24時間で移動している観光客が確認できた。



出典：インバウンドGPSデータ

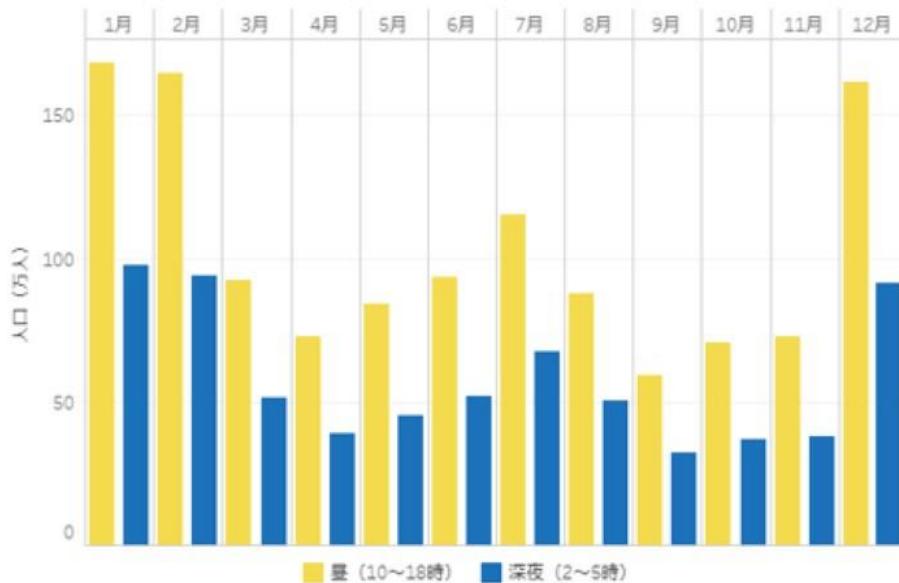
空知・石狩・胆振・日高・後志エリア（新千歳空港エリア）

空知・石狩・胆振・日高・後志エリアの観光人口

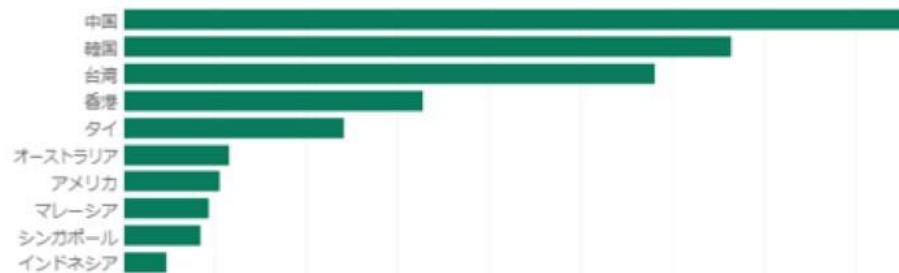
- ・1月、2月、12月と冬に来訪者が多く、次いで7月が多い。9月、10月、11月の秋口が少ない。
- ・中国が最も多く、次いで韓国、台湾、香港、タイと東アジアの国・地域が続く。

●月別観光人口（空知・石狩・胆振・日高・後志エリア）

年間延べ観光人口：16,689,363人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）



出典：モバイル空間統計

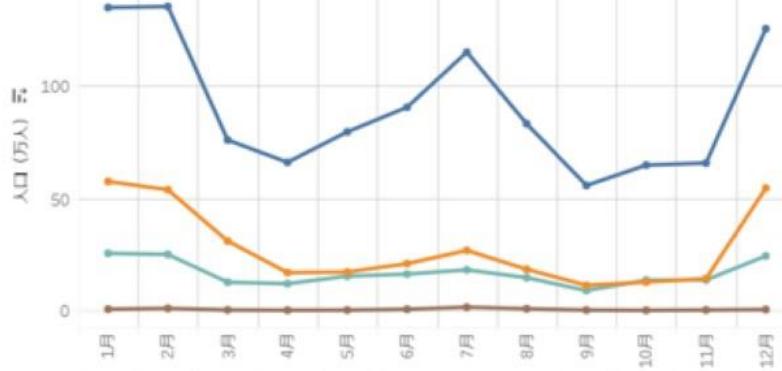
空知・石狩・胆振・日高・後志エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

出典：モバイル空間統計

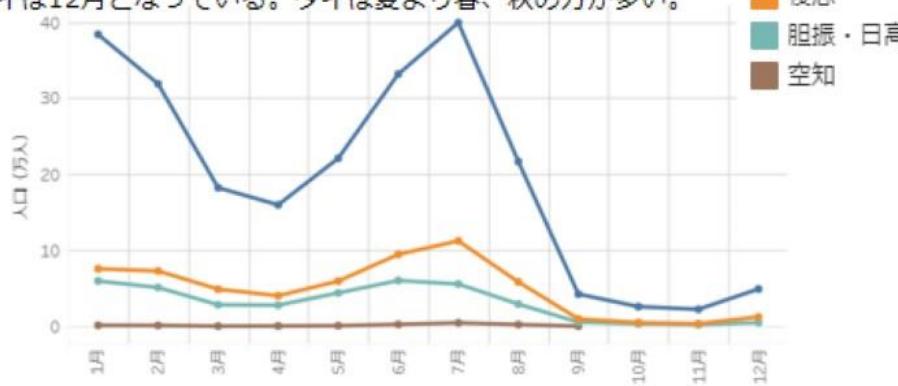
各振興局は同様な季節変動となっており、1月、2月、12月の冬が多い他7月も多い。

上位5か国・地域別に見ると、ピーク時期が中国2月、台湾1月、韓国7月、香港とタイは12月となっている。タイは夏より春、秋の方が多い。

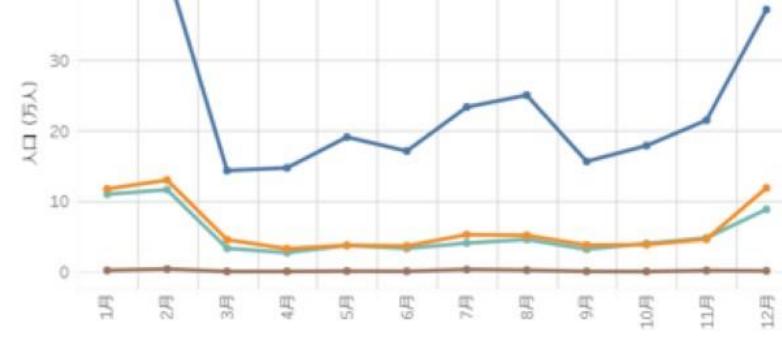
全国籍



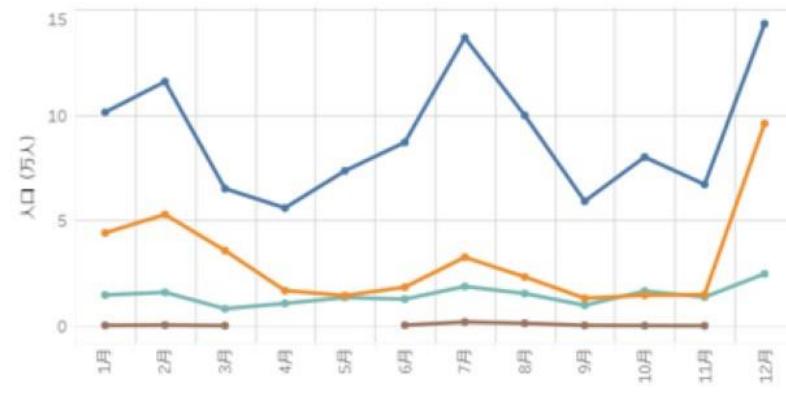
韓国



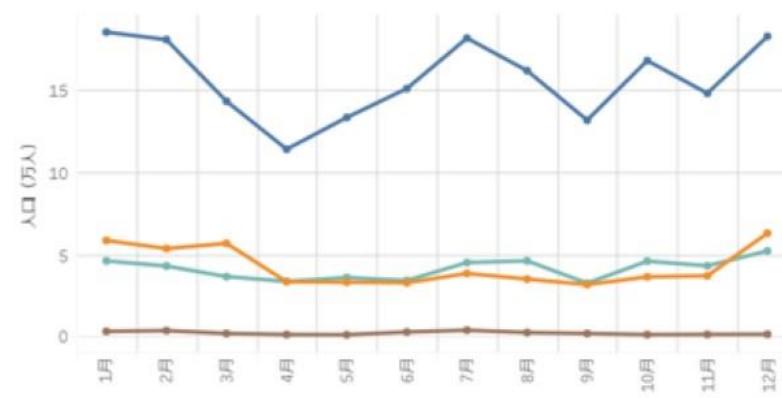
中国



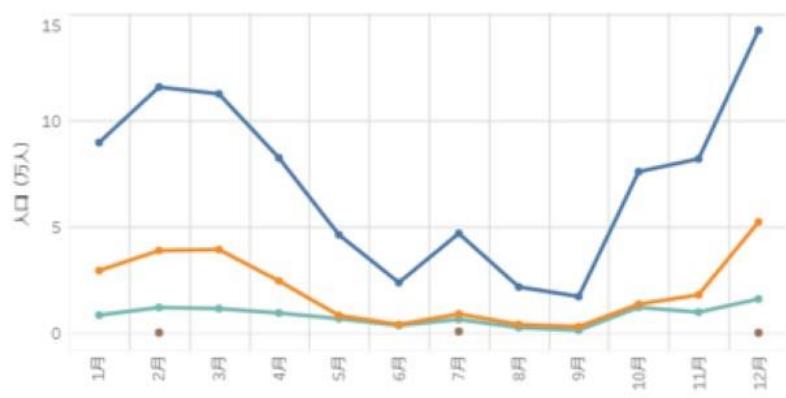
香港



台湾



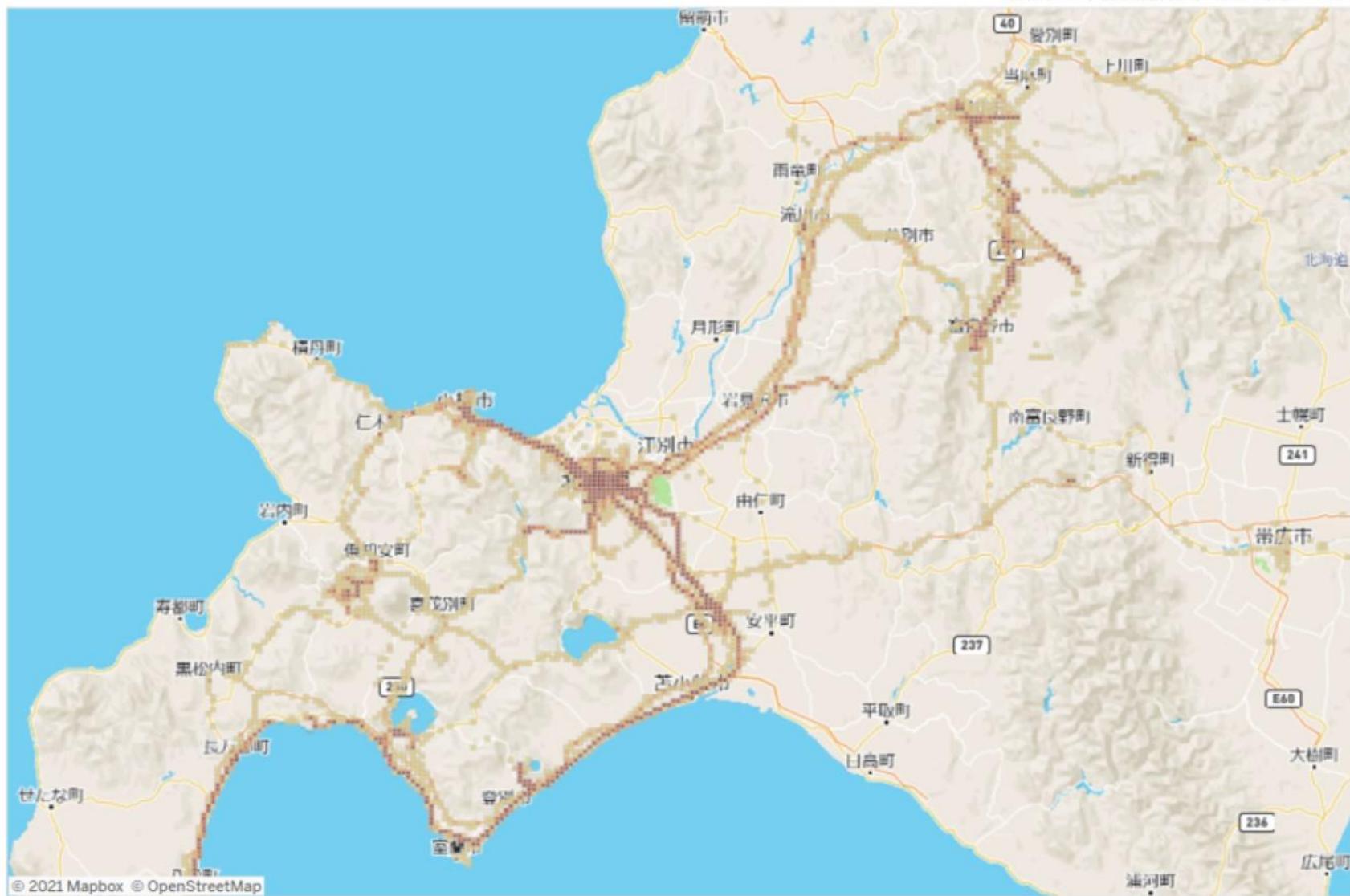
タイ



空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

札幌市から小樽市方面や旭川方面、定山渓方面、苫小牧市・登別市・室蘭市・函館市方面などの移動量が多く、
北海道各エリアへ移動している様子が見て取れる。

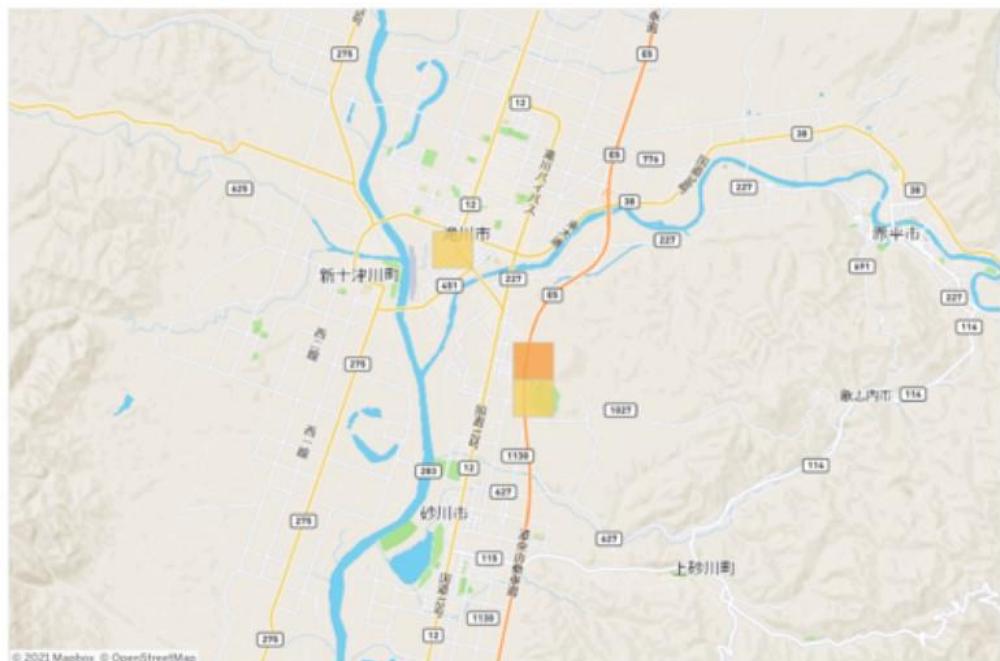
出典：インバウンドGPSデータ



空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

滝川市街や北海道こどもの国、滝の上公園が所在するメッシュで滞在が確認できた。

●空知北部エリア



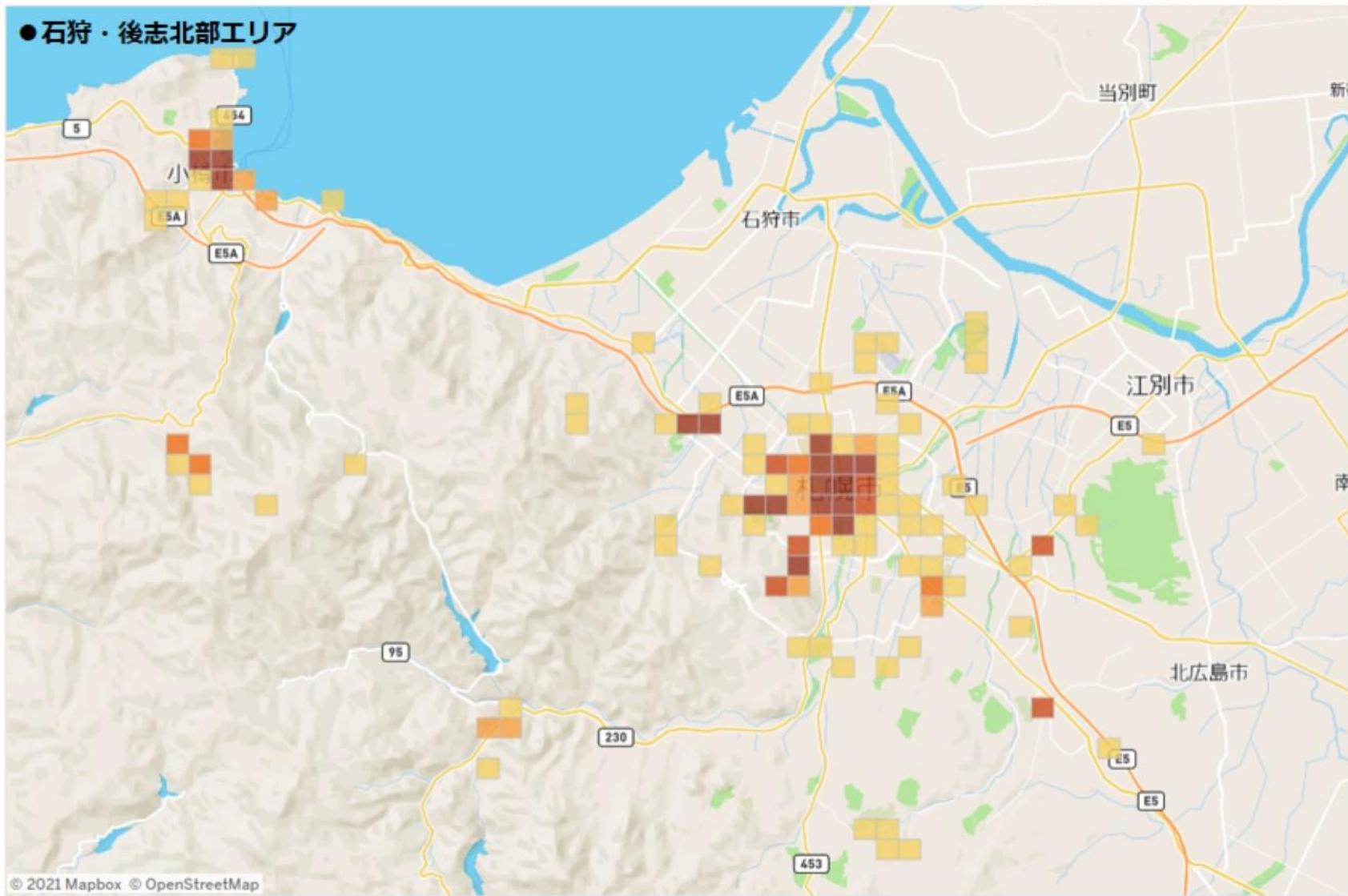
●空知南部エリア



空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

札幌市街や三井アウトレットパーク札幌北広島、藻岩山ロープウェイ、円山公園、白い恋人パーク、小樽市街、定山渓温泉、キロロ温泉が所在するメッシュなどで滞在が確認できた。

出典：インバウンドGPSデータ



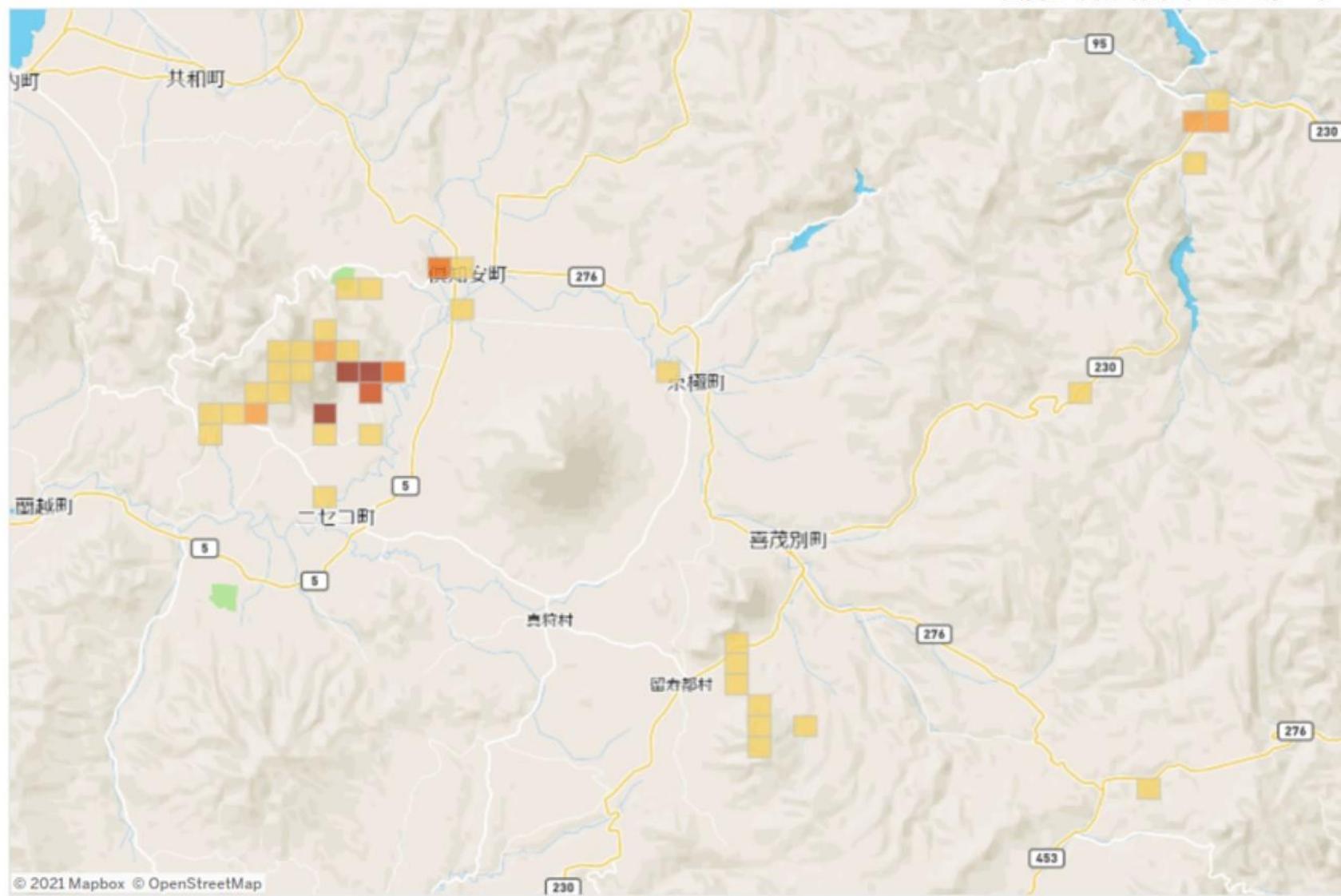
© 2021 Mapbox © OpenStreetMap

空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

ニセコスキー場一帯および俱知安駅周辺の滞在者が多い他、京極スリーユーパークキャンプ場やふきだし公園、留寿都周辺での滞在が確認できた。

●後志南部エリア

出典：インバウンドGPSデータ

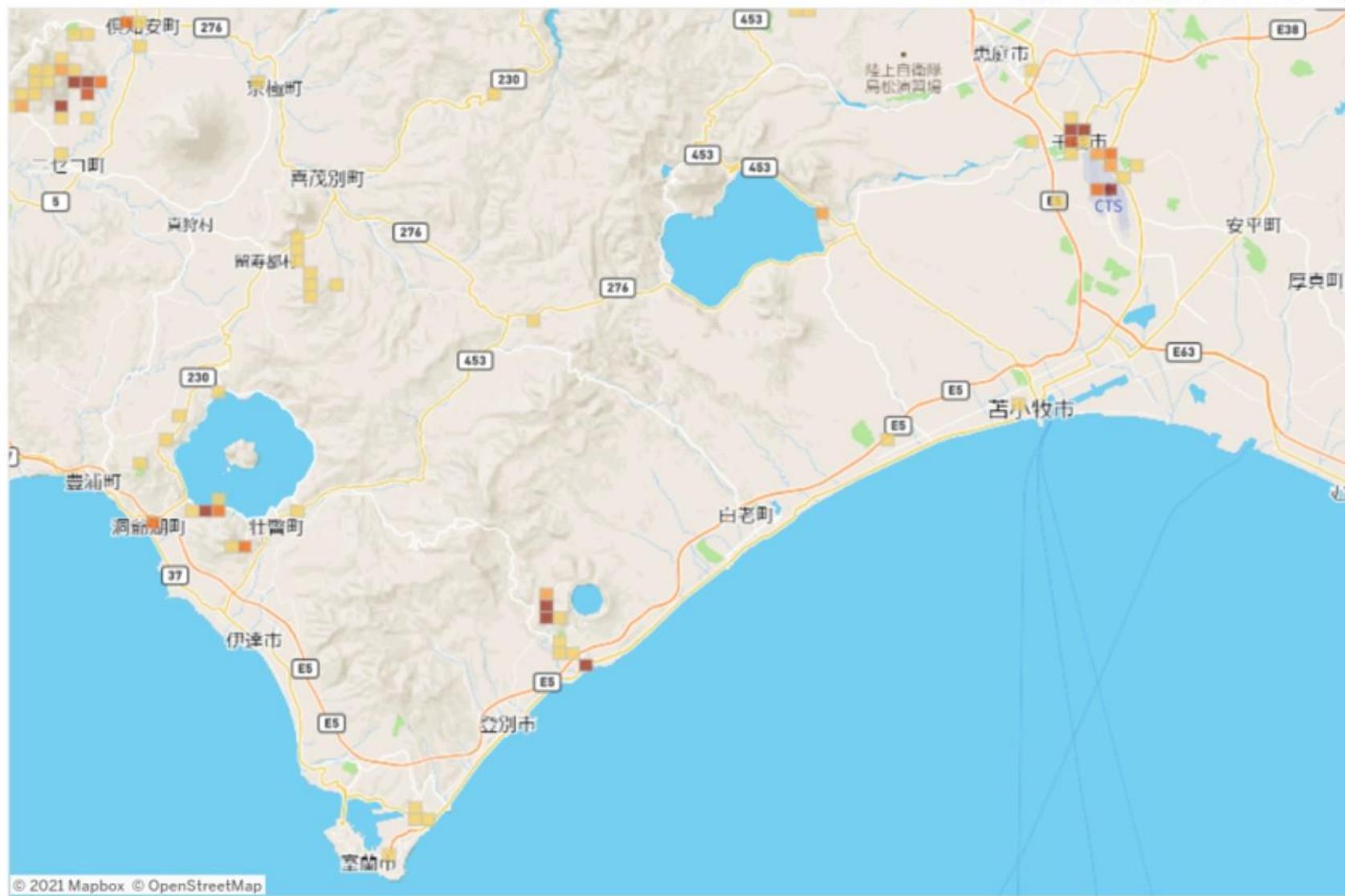


空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

登別温泉や登別地獄谷、洞爺湖温泉や洞爺湖周辺、室蘭や苫小牧周辺での滞在が確認できた。

●胆振エリア

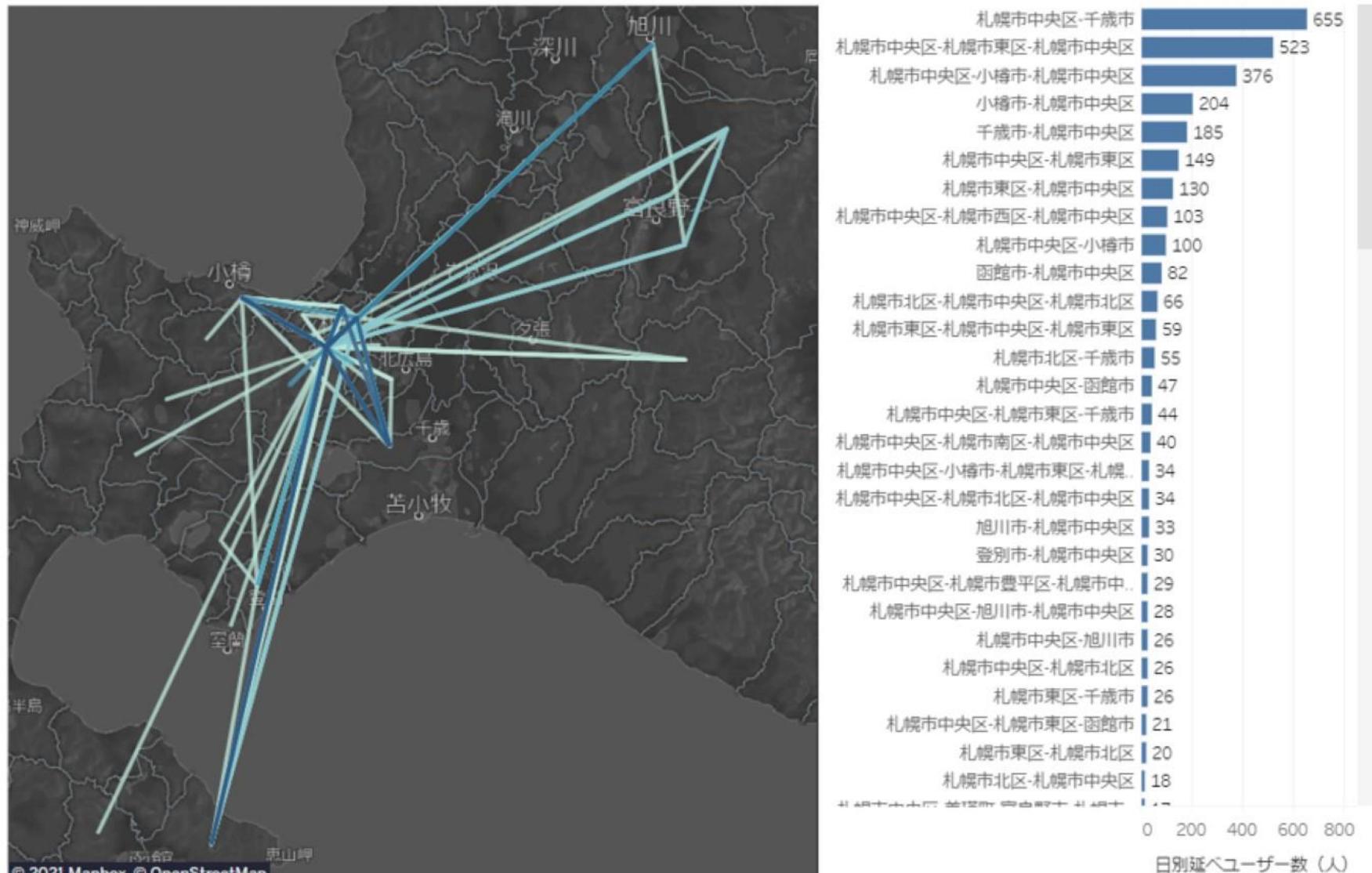
出典：インバウンドGPSデータ



© 2021 Mapbox © OpenStreetMap

空知・石狩・胆振・日高・後志エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

札幌市中央区を起点として各都市と移動して様子が伺える。距離的に近い小樽市や千歳市をはじめ、登別市や旭川市、函館市などの移動も確認できる。



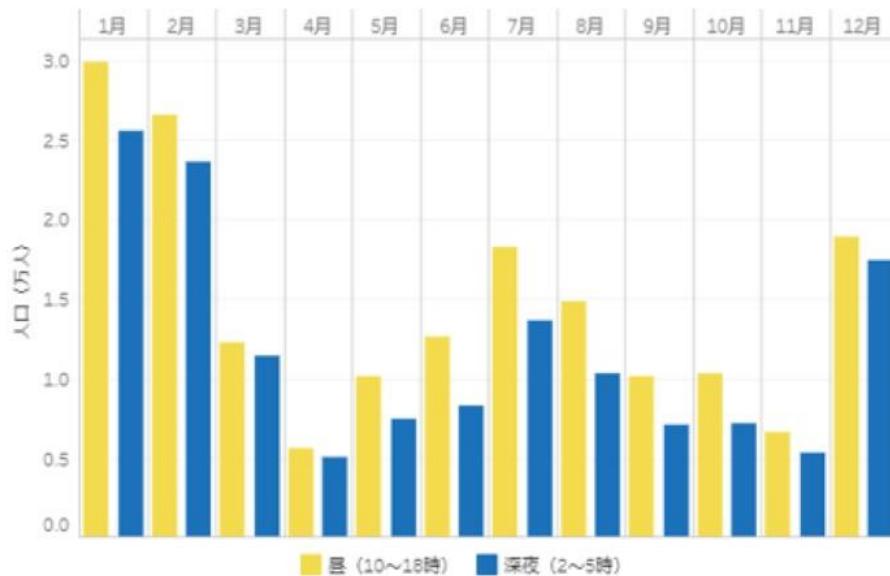
十勝エリア（帯広空港エリア）

十勝エリアの観光人口

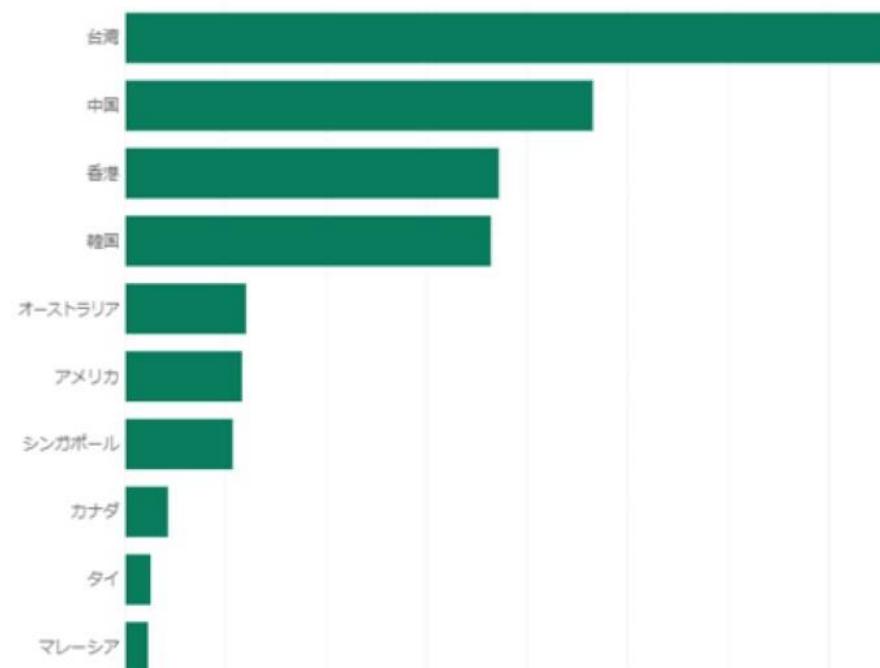
- ・1月が最も多く、2月と12月が次いでおり冬に多く来訪されているが、4月や11月の春、秋は少ない。
- ・台湾が最も多く、次いで中国、香港、韓国、オーストラリアと続く。
- ・昼夜の人数差が少なく、訪問者がそのまま宿泊している様子が見て取れる。

●月別観光人口（十勝エリア）

年間延べ観光人口：284,921人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）



出典：モバイル空間統計

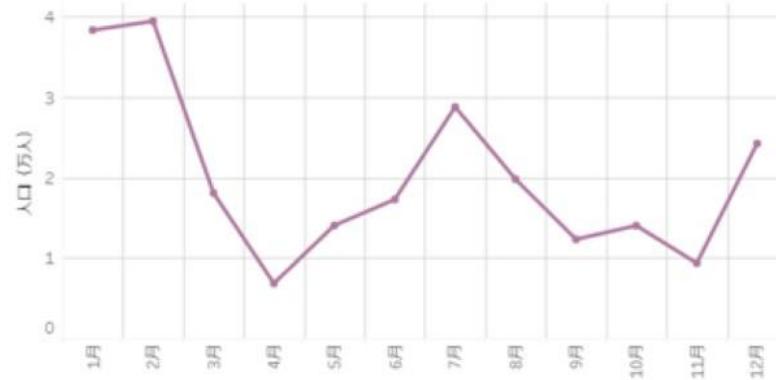
十勝エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

出典：モバイル空間統計

全国籍では2月が最も多く、次いで1月、7月、12月と続く。また4月と11月は来訪者が少ない。

上位5か国・地域別では、台湾と中国は1・2月に集中している一方で、韓国は7月の来訪者が最も多くなっている。オーストラリアは1月が突出している。

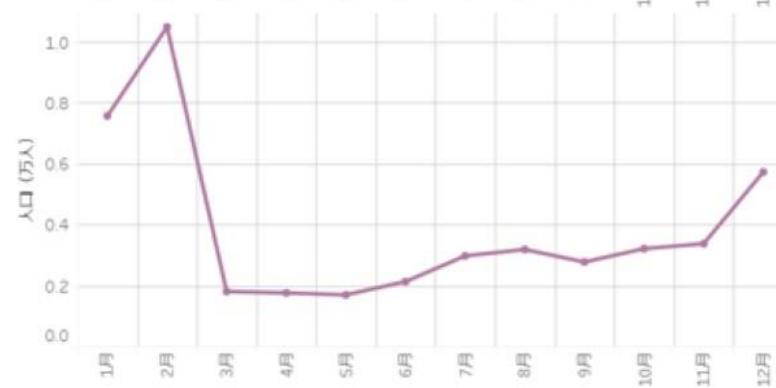
全国籍



台湾



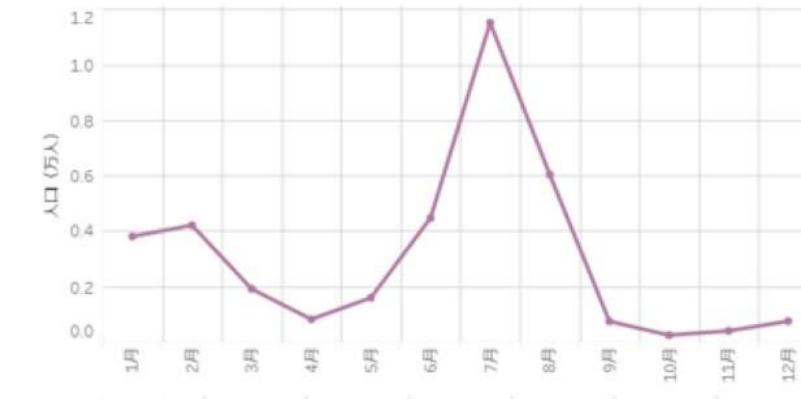
中国



香港



韓国



オースト ラリア



十勝エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

帯広市と札幌市方面を結ぶ根室本線や国道38号、釧路市方面と結ぶ道東自動車道を利用している様子が伺える。

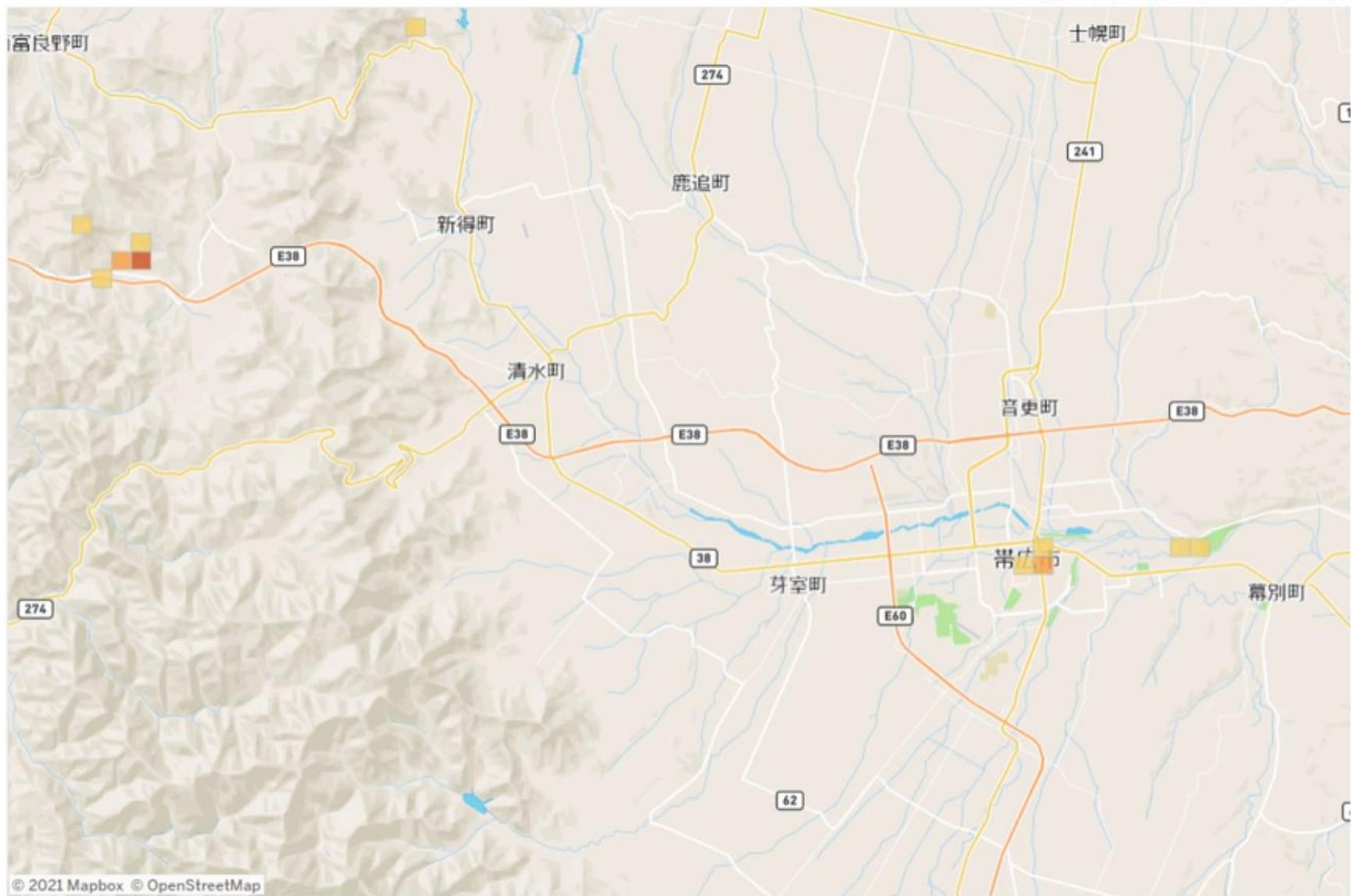
出典：インバウンドGPSデータ



十勝エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

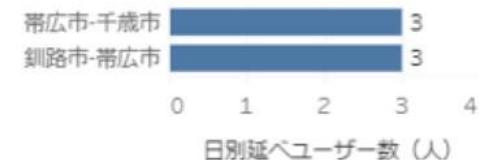
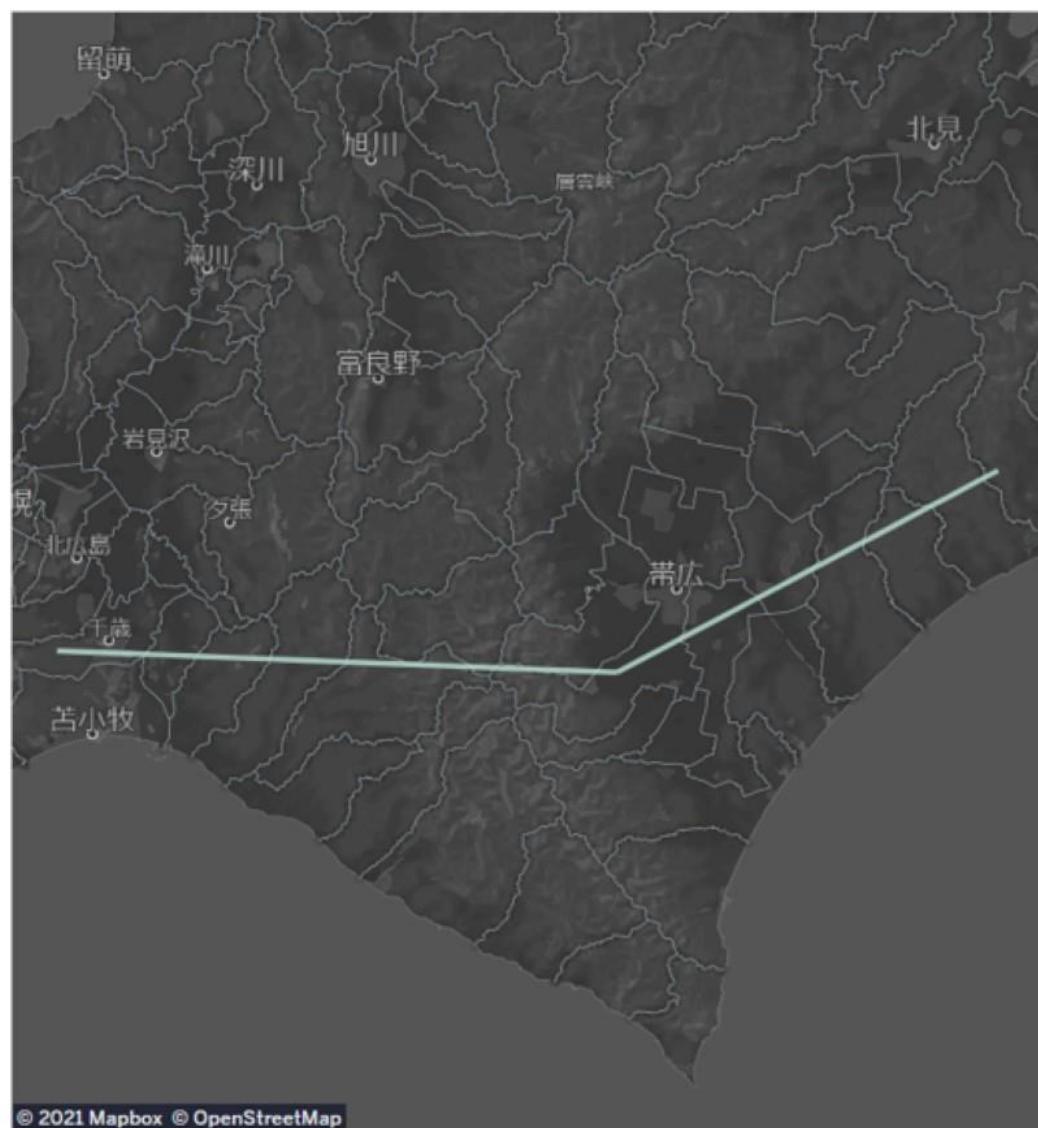
帯広市街や十勝川温泉、トマム周辺での滞在が確認できた。

出典：インバウンドGPSデータ



十勝エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

観測できた人数は少ないが、帯広市と千歳市、釧路市と帯広市を24時間で移動している観光客が確認できた。



© 2021 Mapbox © OpenStreetMap

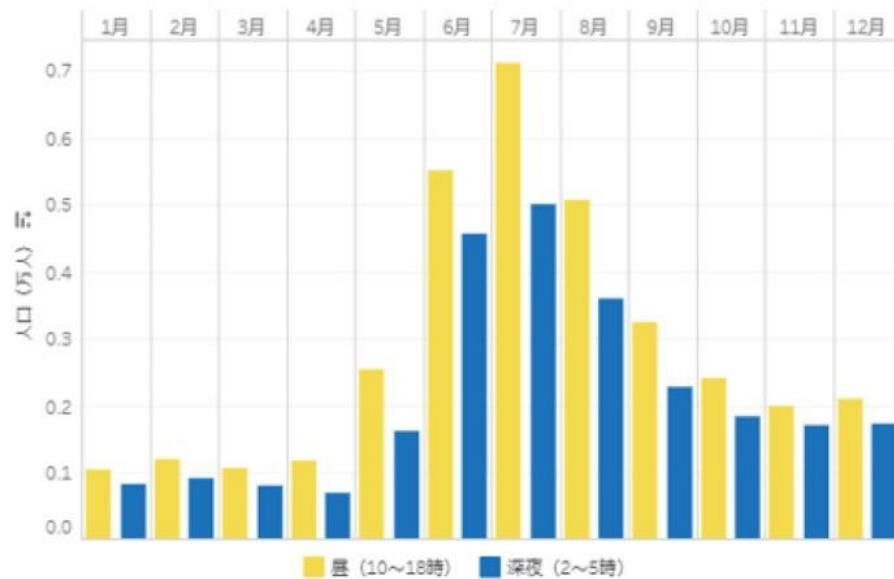
宗谷エリア（稚内空港エリア）

宗谷エリアの観光人口

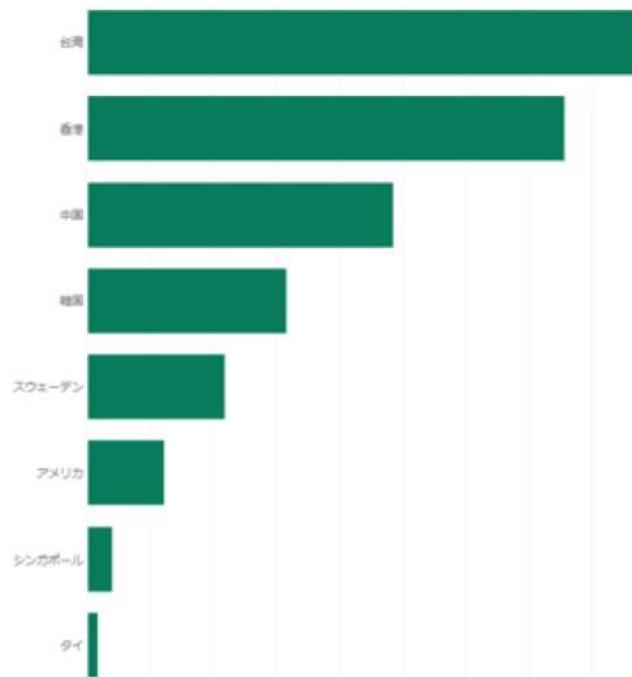
- ・7月が最も多く、次いで6月、8月と夏に来訪されているが、それ以外の月は少なく、冬は来訪者が限られる。
- ・台湾が最も多く、香港、中国、韓国、スウェーデンと続く。

●月別観光人口（宗谷エリア）

年間延べ観光人口：44,115人



●国・地域別観光人口（上位8か国・地域）



出典：モバイル空間統計

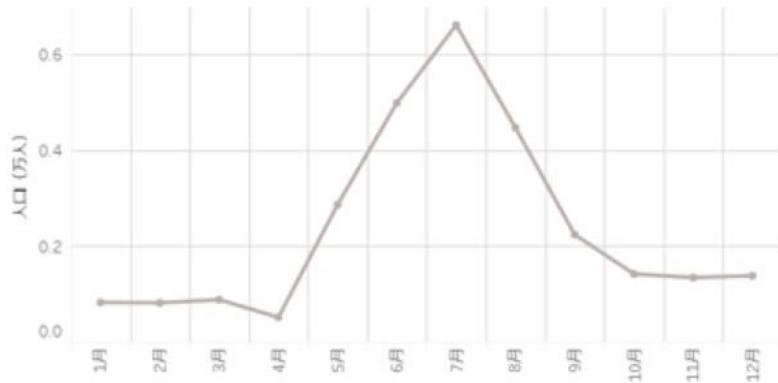
宗谷エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

出典：モバイル空間統計

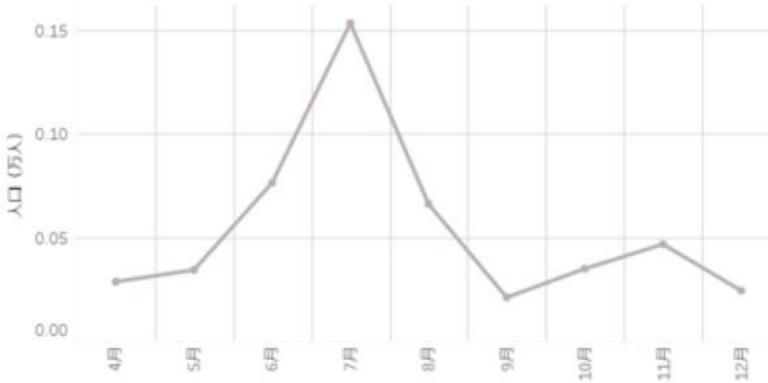
全国籍では7月が最も多く、次いで6月、8月、5月、9月と続き、それ以外の月は来訪者が少ない。

上位5か国・地域別に見ると、台湾は5月、6月、7月が多く、香港は7月、8月が多く来訪時期が少しずれている。

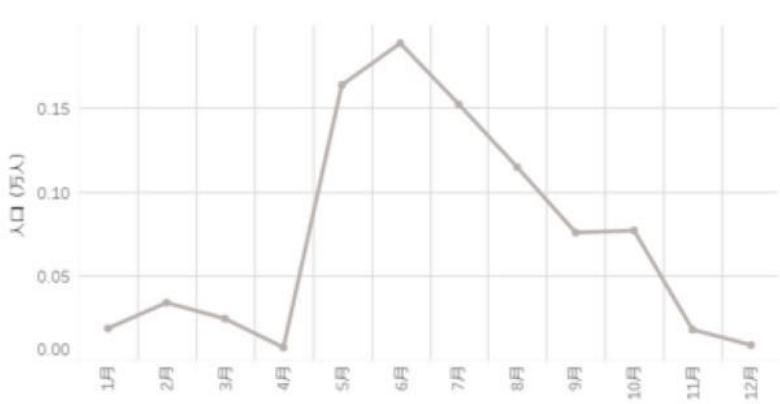
全国籍



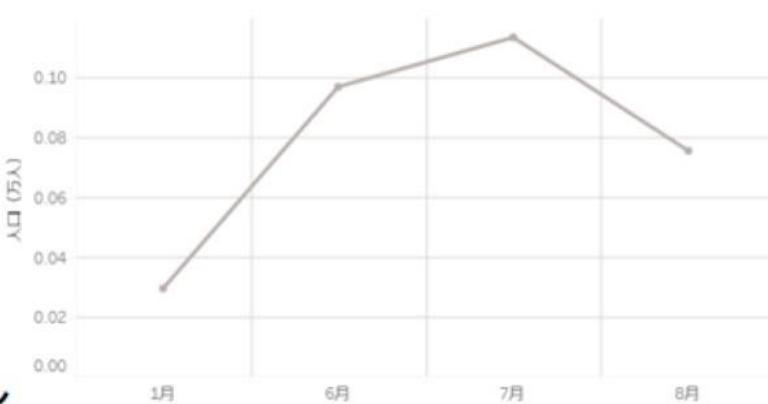
中国



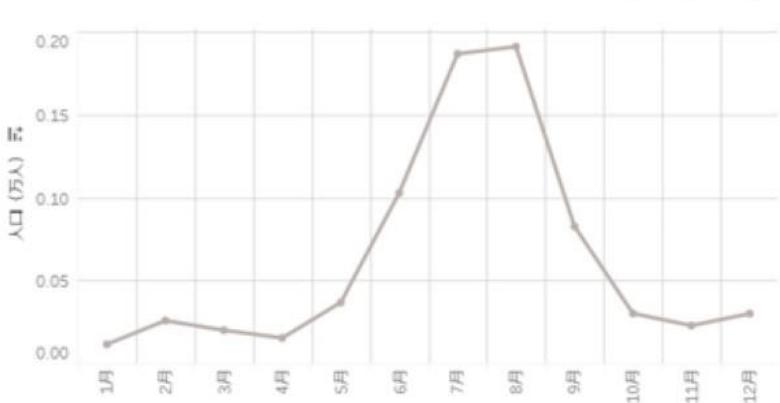
台湾



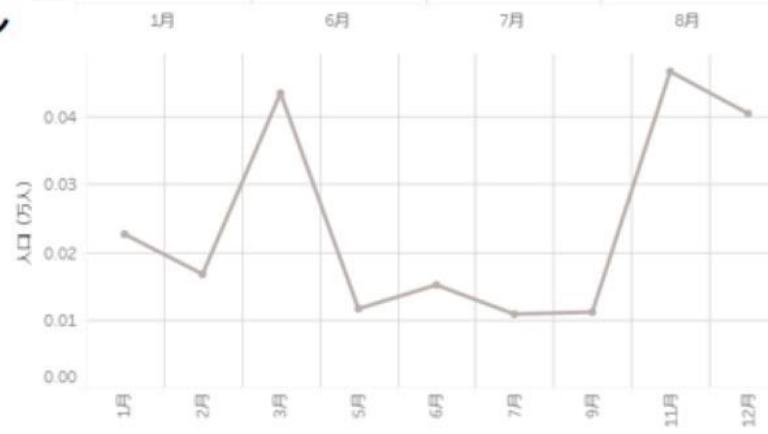
韓国



香港

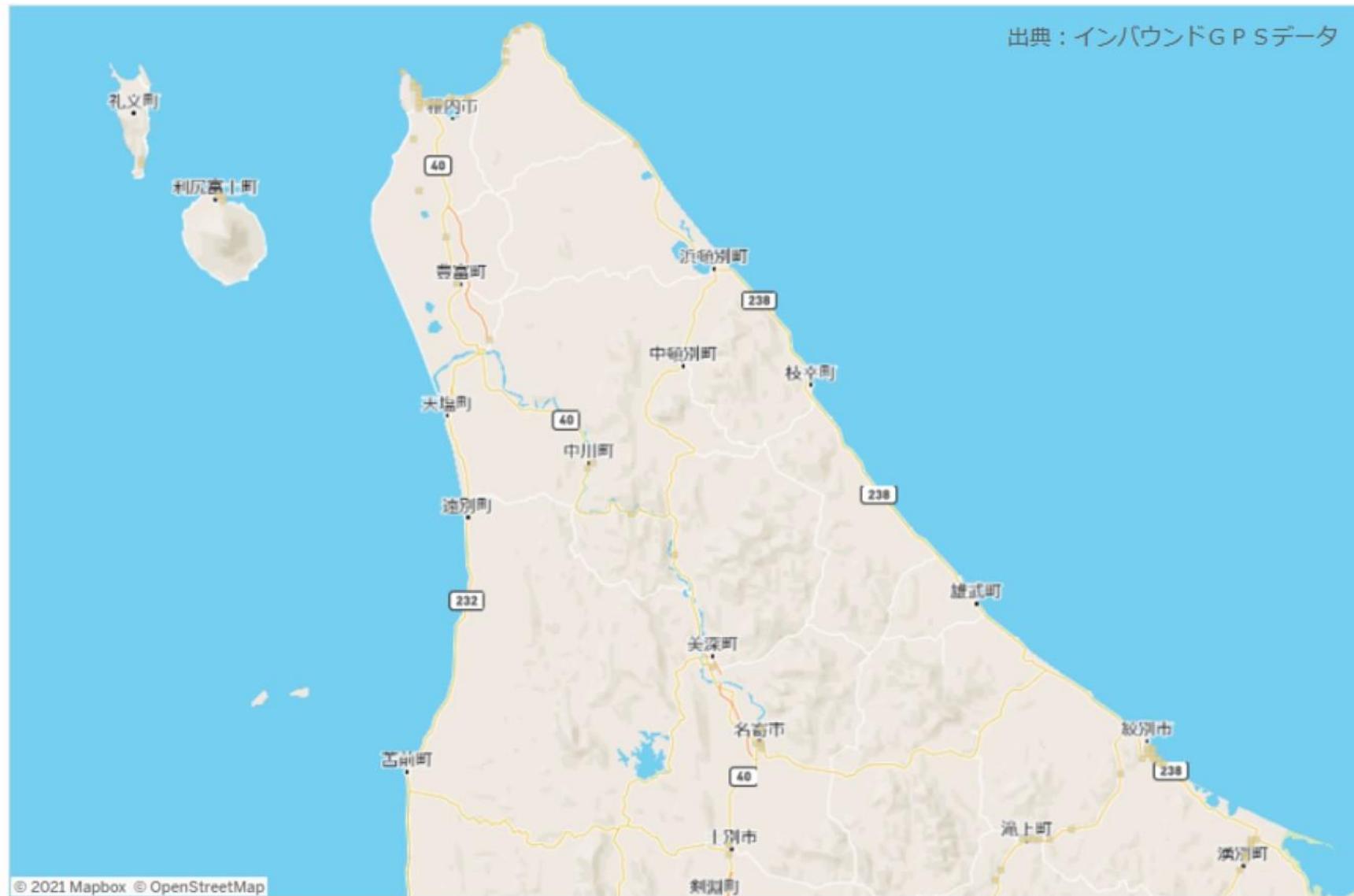


スウェーデン



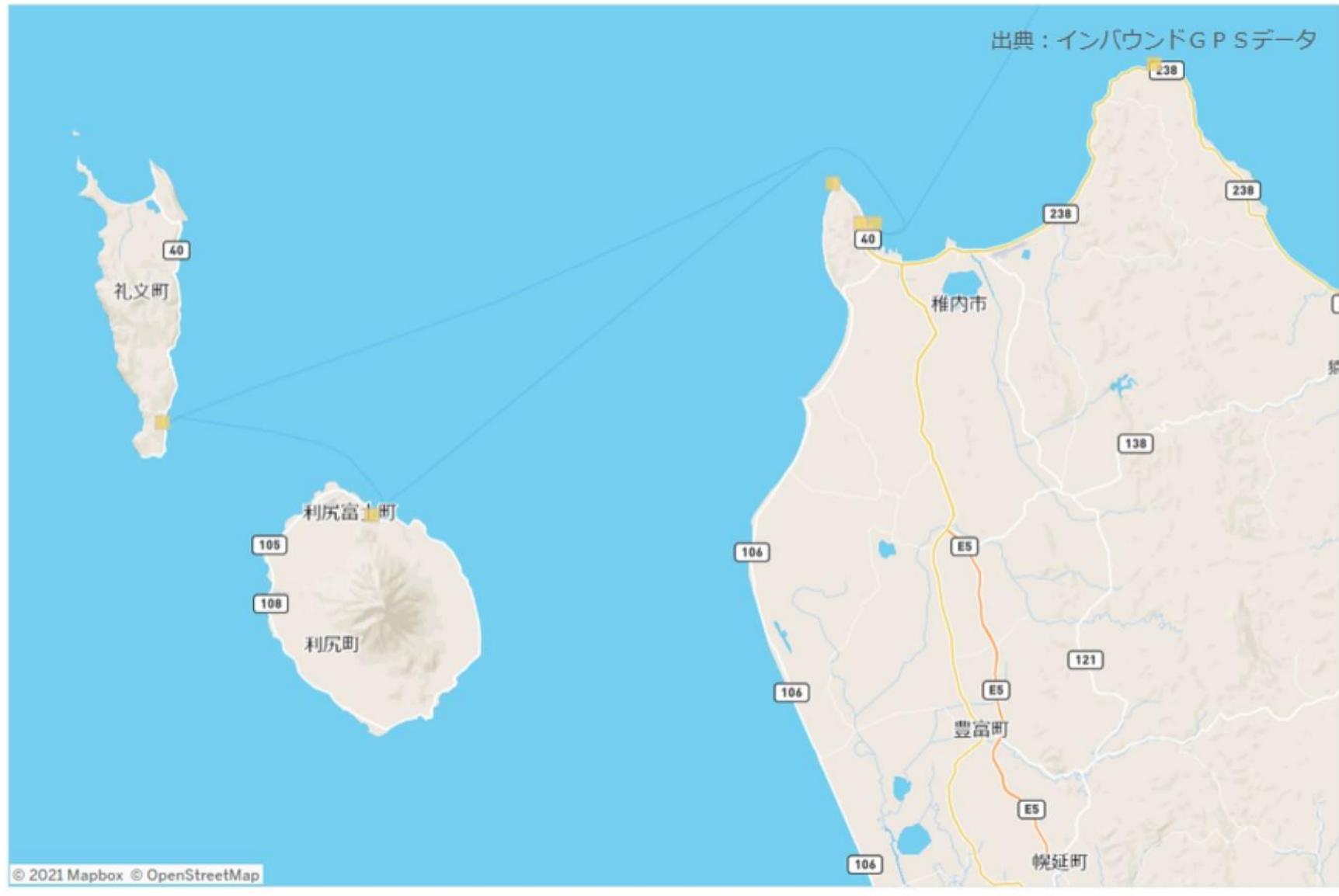
宗谷エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

稚内市街をはじめ、宗谷岬やノシャップ岬を結ぶ海岸線を移動している他、礼文町や利尻富士町などでも測位が確認できた。



宗谷エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

稚内市街の他、宗谷岬、ノシャップ岬、礼文島や利尻島のフェリーターミナル周辺で滞在が確認できた。



宗谷エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

宗谷エリアの市町村を起終点とする24時間以内の移動は確認できなかった。

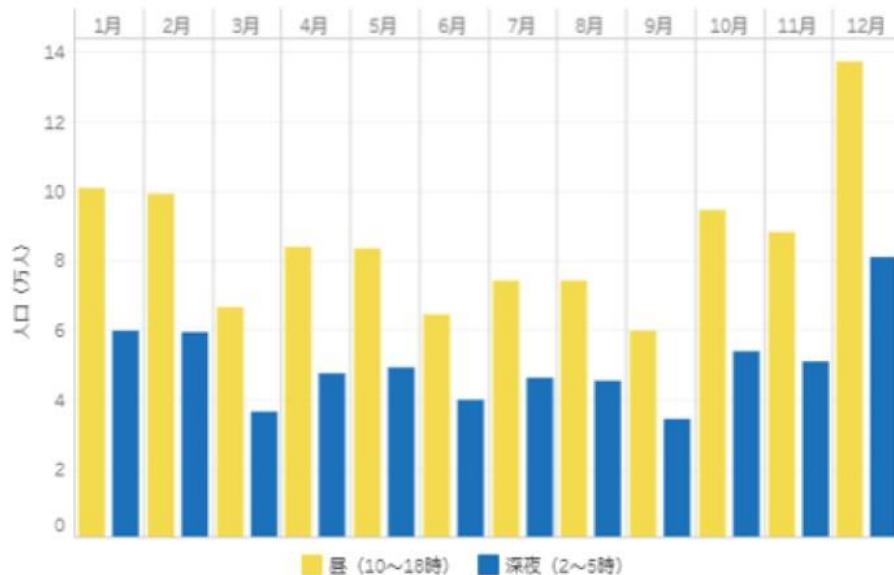
渡島・檜山エリア（函館空港エリア）

渡島・檜山エリアの観光人口

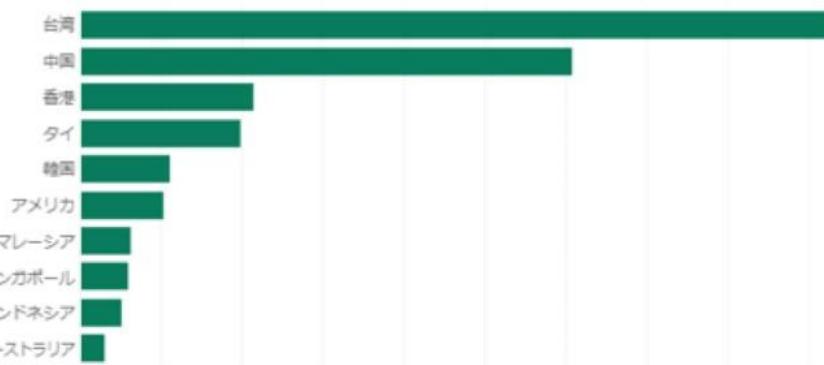
- ・12月が最も多く、次いで1月、2月と冬に多く来訪されているが、季節的な波動は他のエリアと比較して少ない。
- ・台湾が最も多く、中国、香港、タイ、韓国、アメリカと続く。

●月別観光人口（渡島・檜山エリア）

年間延べ観光人口：1,273,370人



●国・地域別観光人口（上位10か国・地域）



出典：モバイル空間統計

渡島・檜山エリアの月別観光人口（全国籍及び上位5か国・地域）

出典：モバイル空間統計

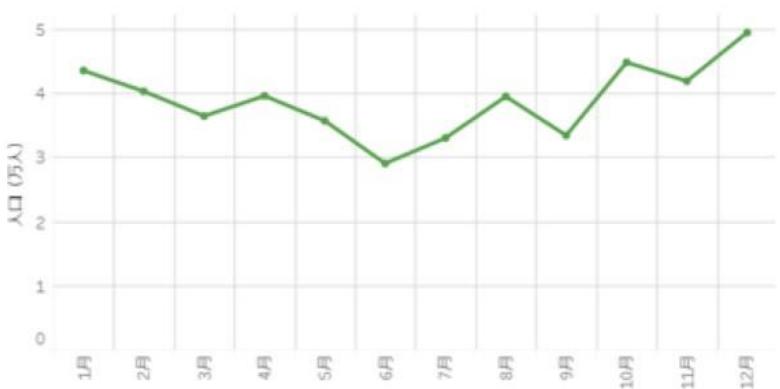
全国籍では12月が最も多いが、季節的な変動は他のエリアと比較して小さい。

上位5か国・地域別に見ると、台湾や香港は比較的季節的な変動は少ないものの、中国は1月、2月、12月に多く、韓国は6月、7月、1月に多い。

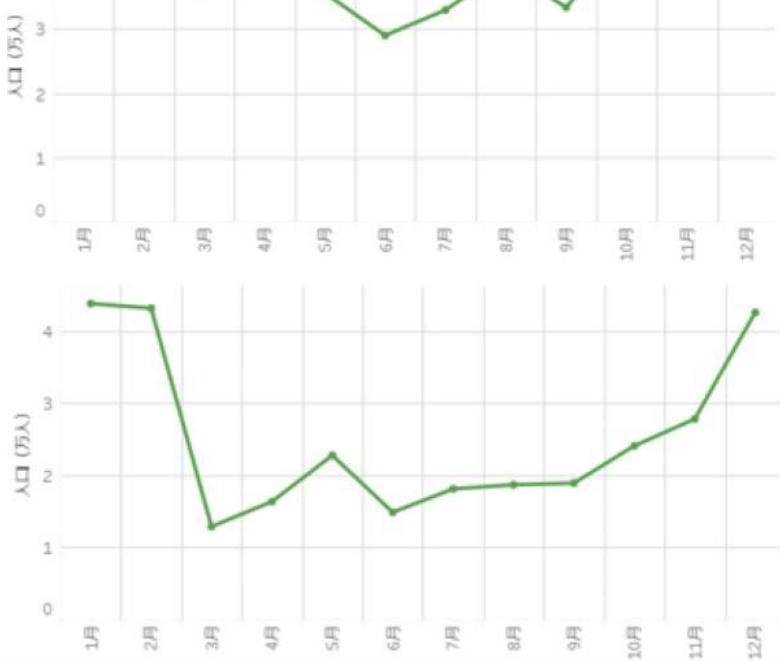
全国籍



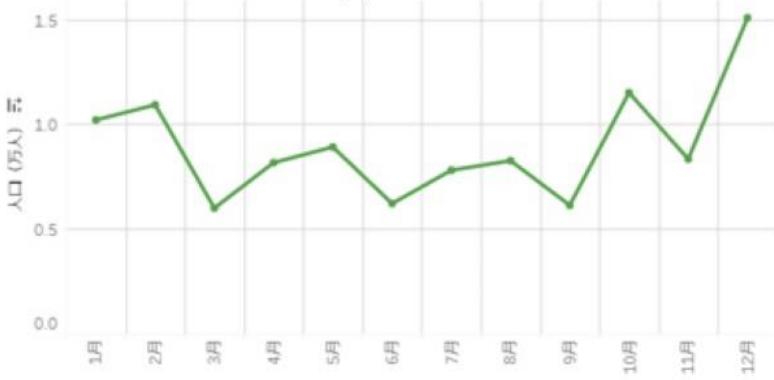
香港



台湾



タイ

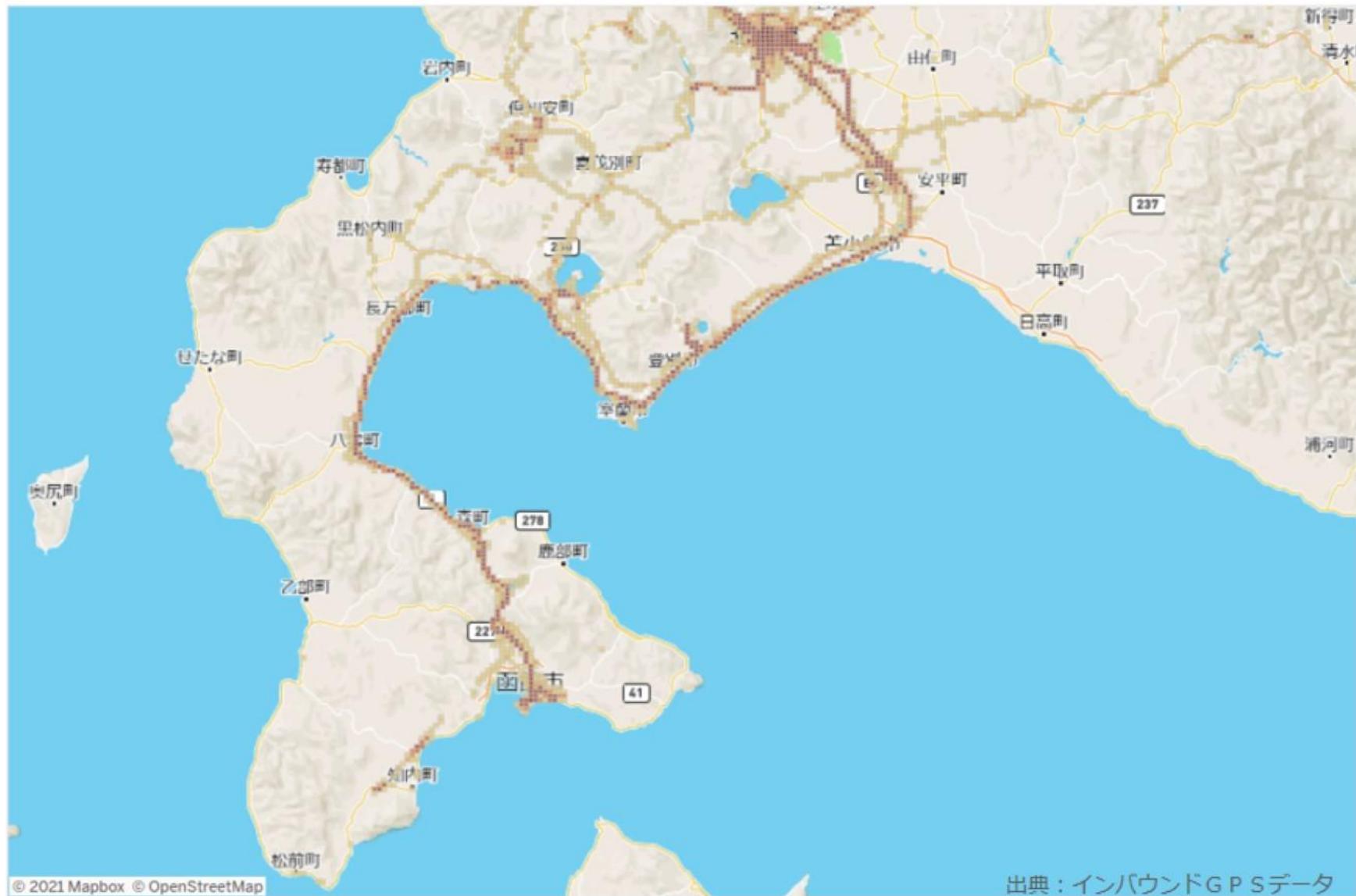


韓国



渡島・檜山エリア | 測位1kmヒートマップ (全国籍)

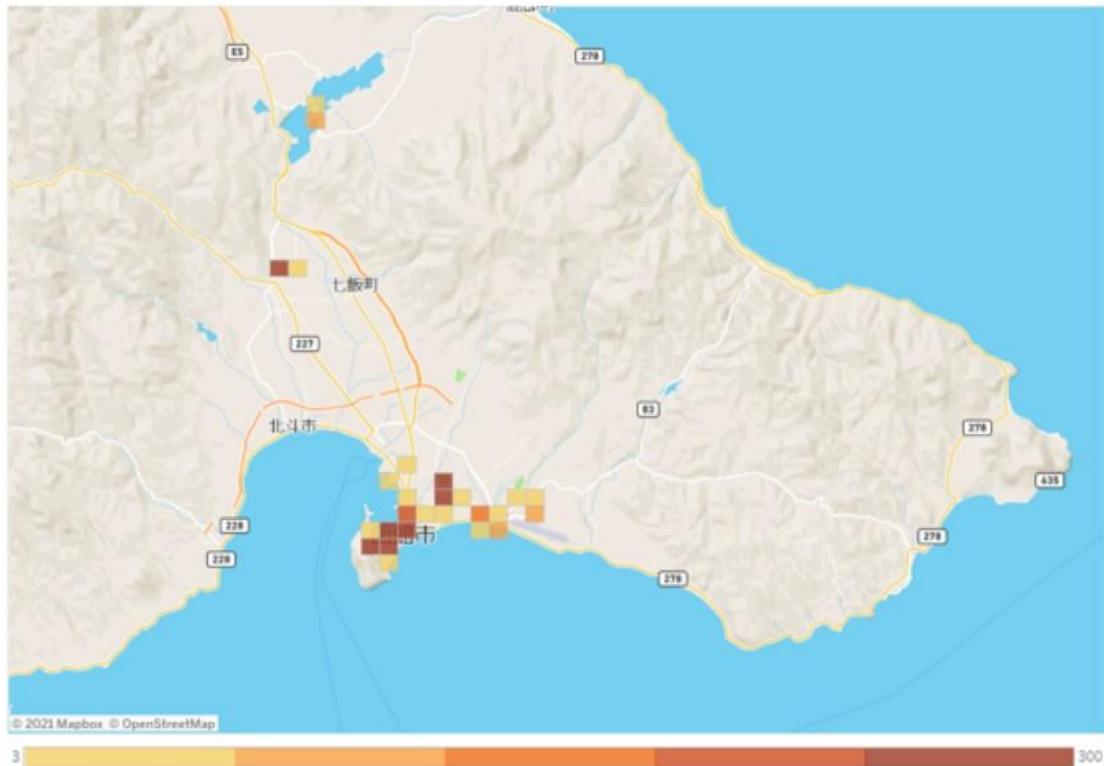
函館市と札幌市を結ぶ函館本線や国道5号、道央自動車道を移動している様子が見受けられる他、大沼公園周辺にも測位が確認できた。



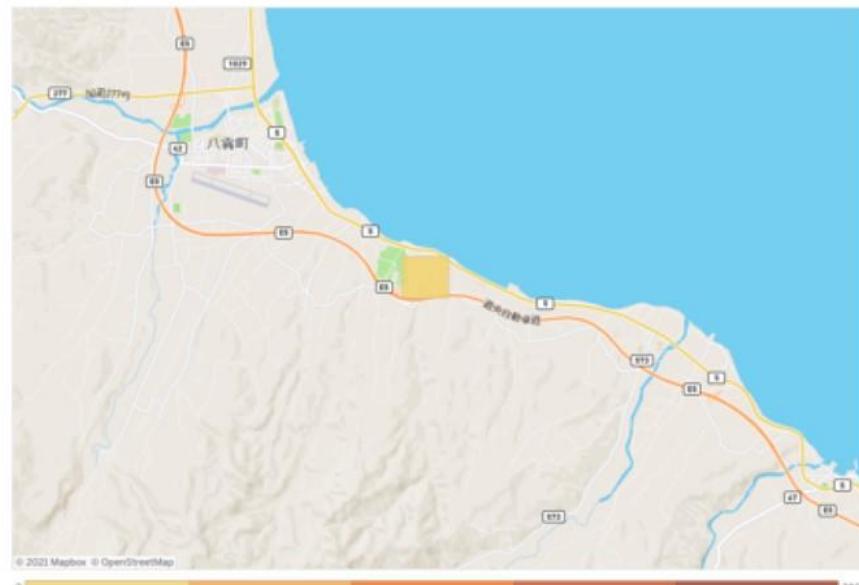
渡島・檜山エリア | 滞在（10分以上）1kmヒートマップ（全国籍）

- ・函館市周辺では、函館市街や函館山、五稜郭周辺の他、新函館北斗駅、大沼公園周辺での滞在が確認できた。
- ・八雲町周辺では、噴火湾パノラマパーク等が所在するメッシューにて滞在が確認できた。
- ・檜山エリアでは、10分以上の滞在が確認された観光客はいなかった。

●函館市周辺



●八雲町周辺



渡島・檜山エリア | 24時間以内の動態（全国籍）

函館市から札幌市中央区への移動が最も多く、次いでその逆向きの札幌市中央区から函館市の移動が多い。
その他、函館市と登別市、千歳市、洞爺湖町との移動も確認できる。



日別延べユーザー数 (人)

出典：インバウンドGPSデータ

打ち手の検討

エリア	特徴	観光振興にあたり
上川・留萌エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ観光人口が2,105,362人（エリア別2位）（P15） ・ 夏と冬の来訪が多く、両季節同程度の割合である。月別では7月の来訪が顕著に多く、次いで2月が多い。一方、4月や11月は著しく落ち込んでいる（P8,15） ・ 中国、台湾、韓国からの来訪が多くそれぞれ同程度来訪されている。次いで、香港、タイが多い（P15） ・ 上位5か国・地域の月別来訪は、同様の傾向がうかがえるが、中国とタイは中でも冬の来訪が多いのが特徴である（P16） ・ エリア内では富良野・美瑛・旭川を結ぶ国道237号や富良野線、青い池方面、旭川から層雲峠への39号線、石北線を利用している様子がうかがえる。また、エリア外からは札幌から旭川を結ぶ函館本線、国道12号のほか根室本線や国道452号の測位が確認できた（P17） ・ 上川中南部の主要市街地、旭山動物園、青い池、白金温泉、トマムの滞在が確認できた一方、留萌エリアや上川北部の滞在は確認できなかった（P18） ・ 旭川市から札幌市中央区への移動及びその逆の移動が多く、また札幌市中央区から旭川市への24時間以内の往復の移動も一定数見られた（P19） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏は7月に偏った来訪時期の分散を図るべく、6月・8月の来訪の動機付けを行う情報発信の実施 ・ タイやシンガポールの東南アジアやオーストラリア、アメリカのプロモーションを強化し、東アジア以外からの誘客拡大を図る ・ 旭山動物園や青い池の季節別の訴求や、季節を問わないアイヌ文化等の訴求により、閑散期である春と秋（特に4月・11月）の観光需要の喚起 ・ 留萌エリアや上川北部のキラーコンテンツの開発と旭川からのモデルコースの開発 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留萌エリアや上川北部の滞在拠点整備や旭川からのアクセス情報の整備 ・ 新千歳や稚内、女満別、帯広空港等とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善
釧路・根室エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ観光人口が353,969人（エリア別4位）（P21） ・ 2月の来訪が顕著に多い。3-4月の来訪が落ち込むがそのほかの月は一定程度訪れられている（P21） ・ 台湾からの来訪が最も多く、中国も同程度来訪している。次いで、香港、韓国、シンガポール、米国が続く。ベトナムがその次に多く、他エリアに見られない特徴である（P21） ・ 国別月別の来訪は、中国が冬（特に2月）に極端な偏りが見られ、韓国は夏（7-8月）に偏っている（P22） ・ 釧路市街や塘路駅までの釧網本線・国道391号、帯広方面への国道240号等の測位が確認できた。また、阿寒湖市街や屈斜路湖・摩周湖周辺の測位が確認できた（P23） ・ 釧路市街、鶴見台、塘路駅、阿寒湖市街、屈斜路湖砂湯、摩周湖第一展望台等の滞在が確認できた。一方、根室エリア一帯は滞在が確認できなかった（P24） ・ 少数だが、網走や帯広との移動が確認できた（P25） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 香港、韓国のプロモーションや季節偏在の少ないアメリカのプロモーション強化 ・ 知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園を強みに季節ごとのアウトドア体験素材の整理や情報発信 ・ 世界遺産知床のエリア一体となったプロモーション ・ 豊富な水産、酪農資源等を活用したコンテンツの訴求により、根室管内への誘客を促進 ・ 十勝やオホーツクエリアとの周遊プラン造成 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根室エリアへのアクセス情報の整備 ・ 帯広空港や女満別空港等とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善 ・ 中標津空港を拠点とした受入環境整備

エリア	特徴	観光振興にあたり
オホーツクエリア	<ul style="list-style-type: none"> 延べ観光人口が243,830人（エリア別6位）（P27） 2月の来訪が顕著に多く、次いで5月が多い。一方で4月・11月は少なく、それ以外は比較的変動が少ない（P27） 台湾からの来訪が最も多く、次いで、中国、香港が同程度、韓国、シンガポール、アメリカと続く（P27） 国別月別の来訪は、全体では2月が多いことに加え、韓国が7・8月、シンガポールが5・6・12月が多いことが特徴である。また、中国は2月に比べ他月の来訪が極端に少ない（P28） 網走市街と女満別空港・北見市・上川町方面を結ぶ国道39号や網走市街とウトロを結ぶ国道334号を移動する様子が確認できた。旭川紋別自動車道や石北本線を利用している様子も確認できた（P29） 主に、網走市街やウトロ市街の滞在が確認できた（P30） 少數だが、釧路や旭川との移動が確認できた（P31） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 流氷観光による冬期のプランディングは維持しつつ、5月の芝桜等滞在時期における特色を整理・情報発信して、季節偏在の解消を図る 季節を問わない地域独自のオホーツク文化や北見の食文化等のコンテンツの訴求 世界遺産知床のエリア一体となったプロモーション 上川や釧路根室エリアとの周遊プラン造成 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 域内周遊を促進する2次交通の整備 旭川空港や釧路等とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善
空知・石狩・胆振・日高・後志エリア	<ul style="list-style-type: none"> 延べ観光人口が16,689,363人（エリア別1位）（P33） 1・2月・12月の来訪が同程度で最も多い。次いで7月が多い。9・10・11月の秋口が少ない。（P33） 中国からの来訪が最も多く、次いで韓国、台湾、香港と東アジアの来訪が上位を占める。次いで、タイ、オーストラリア、アメリカと続く（P33） 国別月別の来訪ピーク時期は、中国は2月、台湾は1月、韓国は7月、香港とタイは12月である。タイは夏より春や秋の来訪が多いことが特徴である（P34） 札幌市街を中心に小樽方面、旭川方面、定山渓方面、苫小牧・登別・室蘭・洞爺を経由した函館方面等多方面に移動している様子がうかがえる（P35、40） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> エリア内の分散が比較的進んでいるが、空知や日高方面等への波及効果を高めるため、両エリアのプランディング及びコンテンツのブラッシュアップが求められる 東南アジアや欧米豪の誘客促進の一層強化 他エリアへの周遊を促す周遊プランの訴求 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他空港とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善

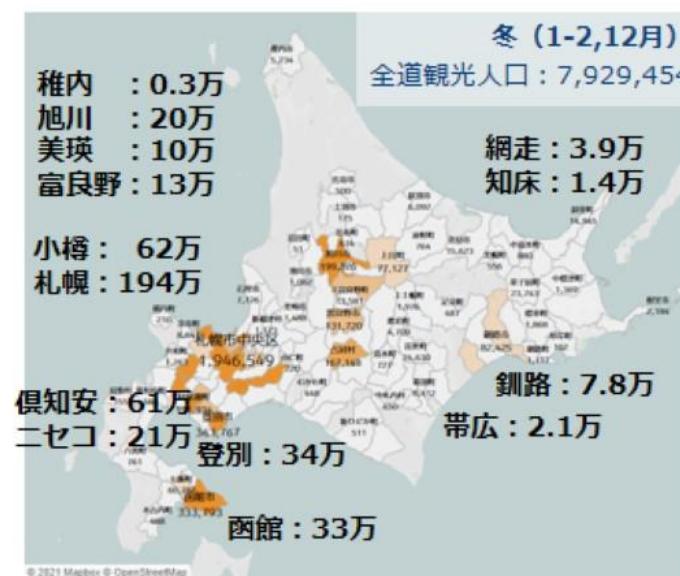
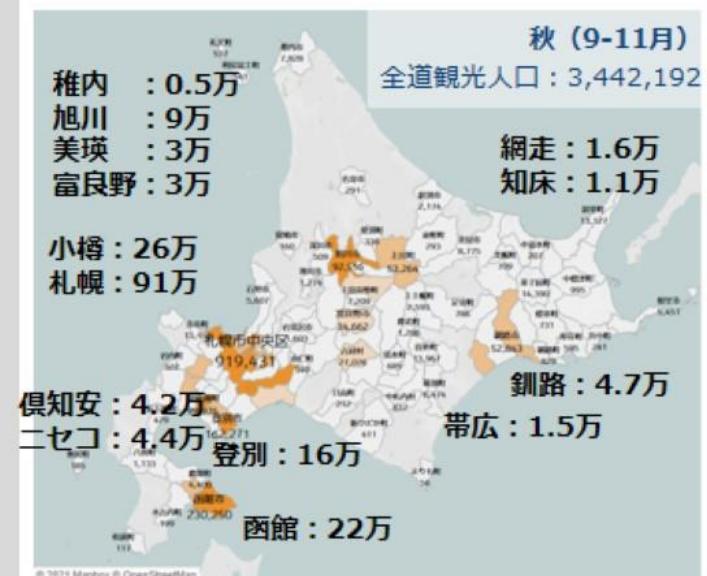
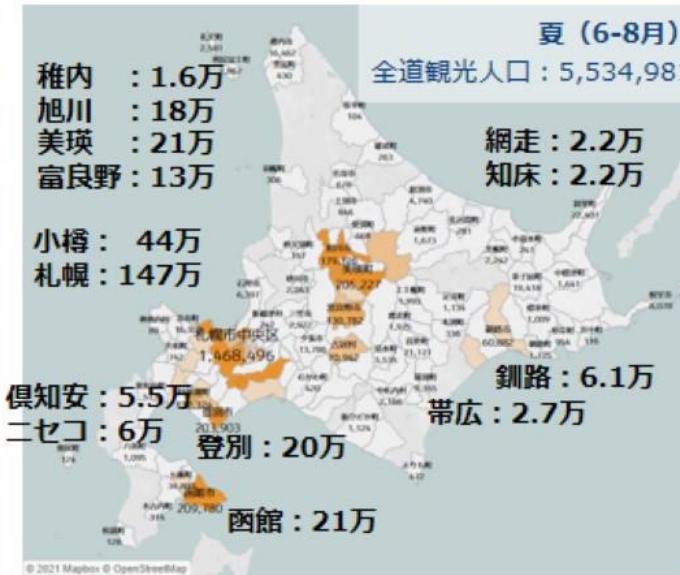
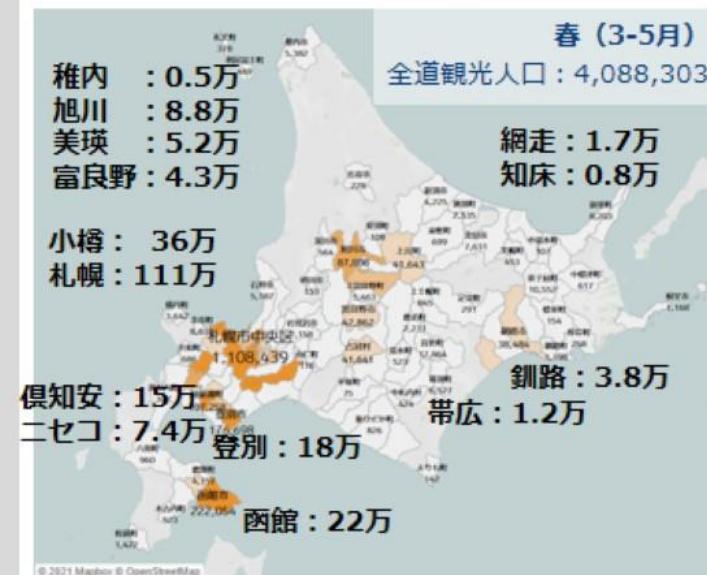
エリア	特徴	観光振興にあたり
十勝エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ観光人口が284,921人（エリア別5位） ・ 1月の来訪が最も多く、2月、12月も次いで多い（P42） ・ 台湾、中国、香港、韓国と東アジアからの来訪が上位を占める。次いでオーストラリア、アメリカ、シンガポール、カナダと英語圏が続く（P42） ・ 国別月別の来訪は、台湾と中国が1・2月に集中している一方、韓国は7月が多い。オーストラリアは1月に突出しており、それ以外の月の来訪は僅少である（P43） ・ 札幌方面とを結ぶ根室本線や国道38号、釧路方面とを結ぶ道東自動車道を利用している様子が確認できる（P44） ・ 帯広市街や十勝川温泉の滞在が確認できる（P45） ・ 少数だが、帯広－千歳や釧路－帯広の移動が確認できた（P46） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然系アクティビティや農業基盤を活かした食と観光のコンテンツの訴求による冬期季節偏在の解消 ・ エリア内モデルコース整備による域内周遊を促進 ・ 富良野・美瑛・トマム方面との周遊プランの造成 ・ 英語圏へのプロモーション強化 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 域内周遊を促進する2次交通の整備 ・ 新千歳空港からのアクセス強化 ・ 新千歳空港や釧路空港とのオープンジョーの商品開発や他地域とのアクセス改善
宗谷エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ観光人口が44,115人（エリア別7位）（P48） ・ 7月の来訪が最も多く、前後の6・8月が次いで多い。1～4月にかけての冬期の来訪が極端に少ない（P48） ・ 台湾、香港、中国、韓国と東アジアからの来訪が上位を占める。次いで、スウェーデンが多いことが特徴である（P48） ・ 国別月別の来訪は、台湾が5・6・7月、香港は7・8月が多く、来訪時期に多少違いが見られる（P49） ・ 稚内市街はじめ、宗谷岬やノシャップ岬を結ぶ海岸線を移動しているほか、礼文町や利尻富士町などでも測位が確認できた。一方で、稚内市街から名寄市街までの測位はほとんど確認できなかった（P50） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬期当エリアにおけるプランディングの強化 ・ 冬期の来訪が多い中国やオーストラリア等ターゲットを絞って誘客促進を図る ・ 離島観光の促進や水産資源や国立公園の自然を活用したコンテンツの拡充 ・ 稚内－旭川間のモデルコースの開発・訴求 <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 域内周遊を促進する2次交通の整備 ・ 豊富温泉ほか上川・オホーツク間における滞在拠点や観光中継地点の整備 ・ 新千歳－稚内間の航空機利用促進や、旭川空港とのオープンジョーによる周遊を可能とする環境整備

エリア	特徴	観光振興にあたり
渡島・檜山エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ観光人口が1,273,370人（エリア別3位）（P54） ・ 12月の来訪が最も多いが、比較的季節的な変動が少ない（P54） ・ 台湾からの来訪が最も多く、次いで中国、香港、タイと続く（P54） ・ 国別月別の来訪は、台湾・香港の季節変動が少ない一方、中国は冬期に偏りが見られる（P55） ・ 道央方面とを結ぶ函館本線や国道5号、道央自動車道を移動している様子や大沼公園周辺の測位が確認できた。一方で、日本海側方面の測位は確認できた（P56） ・ 函館市街や函館山、五稜郭周辺のほか、新函館北斗駅、大沼公園周辺、噴火湾パノラマパークでの滞在が確認できた（P57） ・ 函館と札幌間の移動のほか、登別や洞爺湖等との移動も確認できた（P58） 	<p>【誘客促進・観光資源開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 函館－道央エリア間のコンテンツ拡充 ・ 日本海側への周遊を促進するためのコンテンツの開発とモデルコースの訴求 ・ 東北北部との広域連携によるプロモーション <p>【受入環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 域内周遊を促進する2次交通の整備 ・ 新幹線やフェリー利用の促進による東北からの誘客拡大 ・ 新千歳空港とのオープンジョーによる周遊を可能とする環境整備

參考資料

観光客の季節別訪問先（全国籍）

●季節別の観光人口（全国籍）



- ・全体的に冬の訪問者が多い傾向にある。

- ・一方、夏が最も多い地域もあり、美瑛や稚内はその傾向が顕著であり、知床、帯広なども同様の傾向が見られる。

- ・サンプルは少ないものの、豊富町など夏のみサンプル取得できている地域があり、他季節と比較して夏の周遊が進んでいる傾向がある。

- ・美瑛周辺の旭川、富良野は夏と冬の差がそれほど見られない。

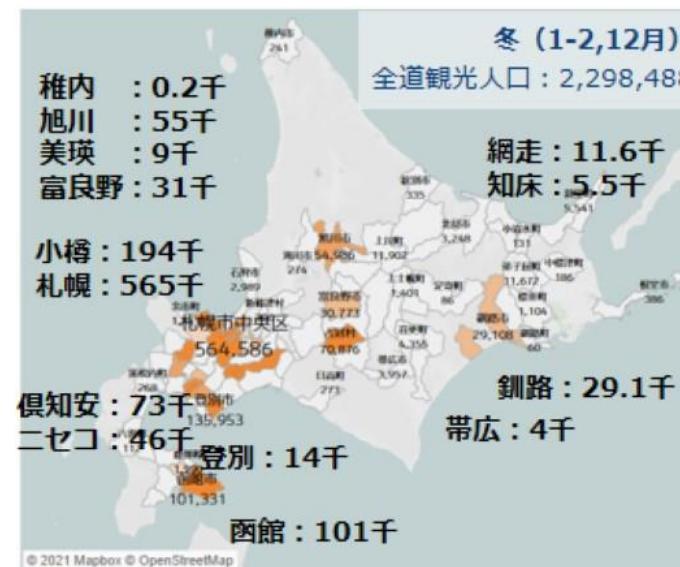
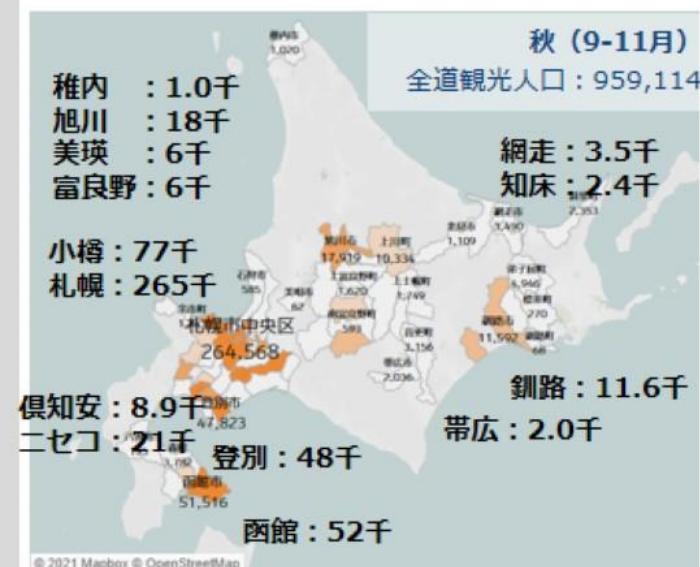
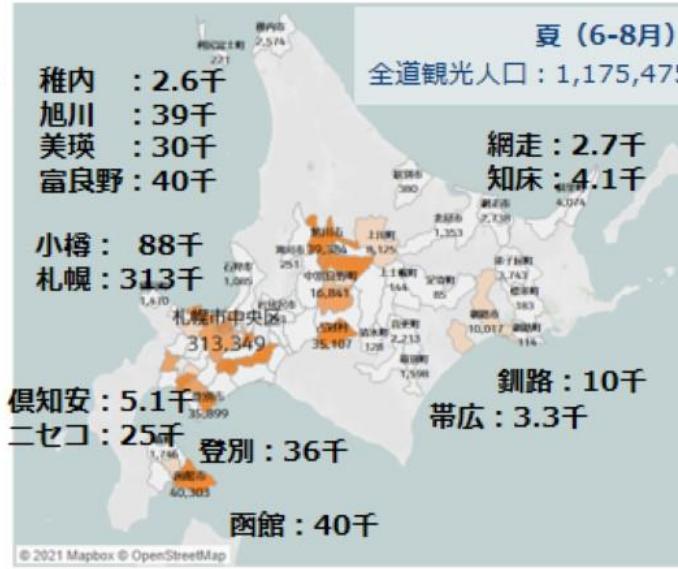
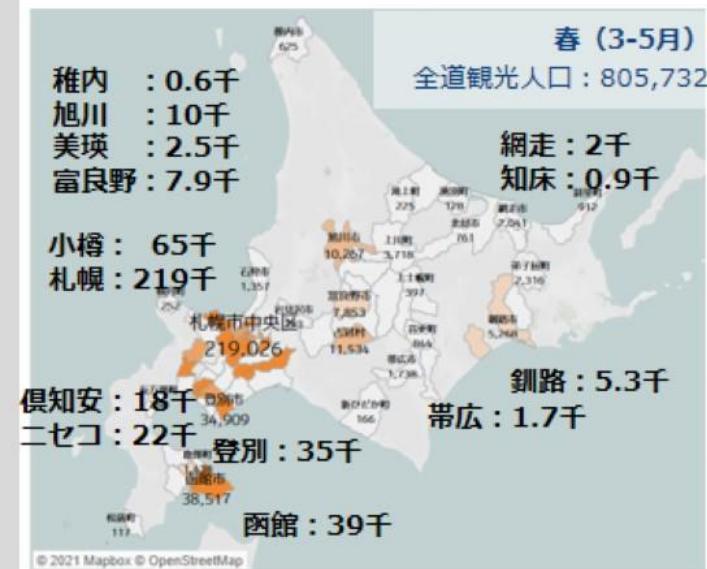
- ・小樽の人数は各季節ともに札幌の約3割程度である。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（中国）

●季節別の観光人口（中国）



- ・全体的に冬の訪問者が多い傾向にあり、網走が11.6千人と多く、流氷観光であると考えられる他、札幌や小樽、函館、旭川、釧路と各エリアの都市にも多く来訪している。

- ・春は、札幌や小樽の他、函館や登別が多くなっている。

- ・夏は、美瑛や富良野、旭川の来訪が多い他、稚内来訪者が一番多くなる時期である。

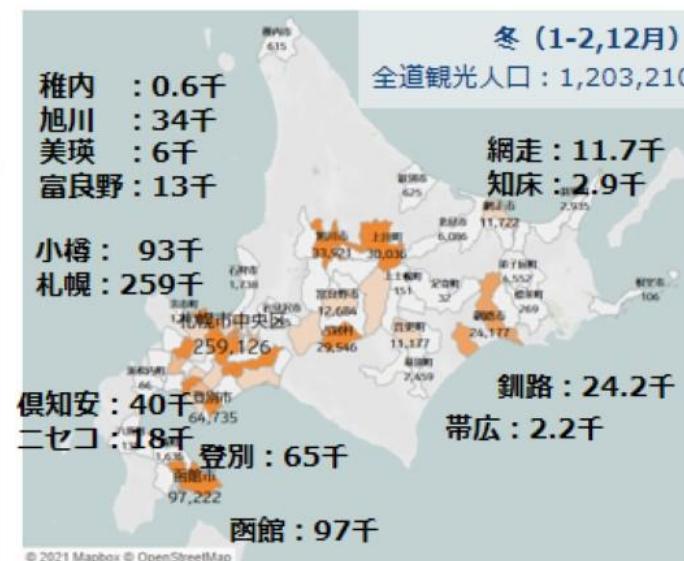
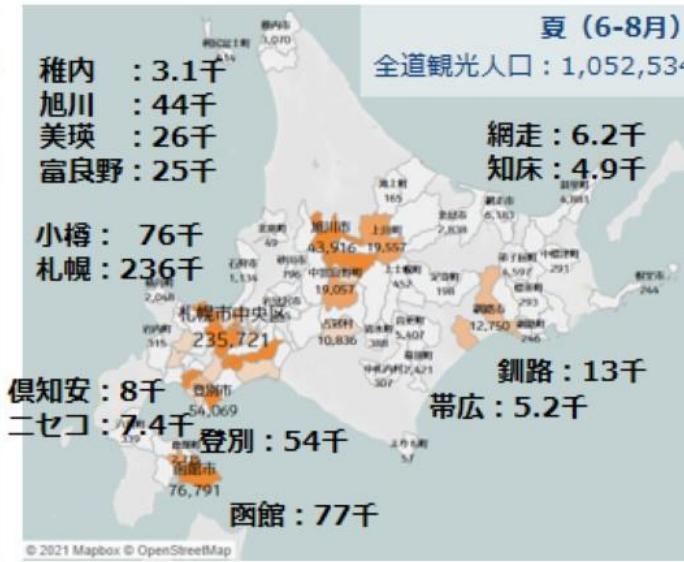
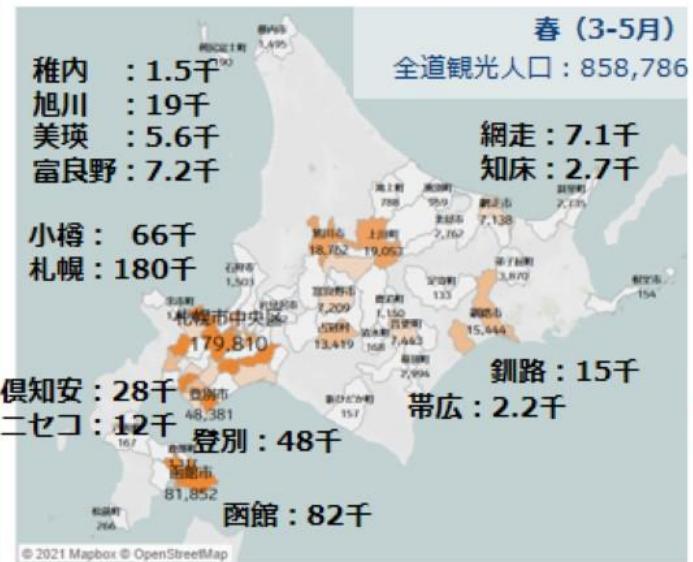
- ・秋は、札幌や小樽の他の季節でも多いエリアの他、函館や登別の来訪が多くなっている。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（台湾）

●季節別の観光人口（台湾）



- 他の国籍と比較して、季節問わずまんべんなく来訪している傾向が伺える。

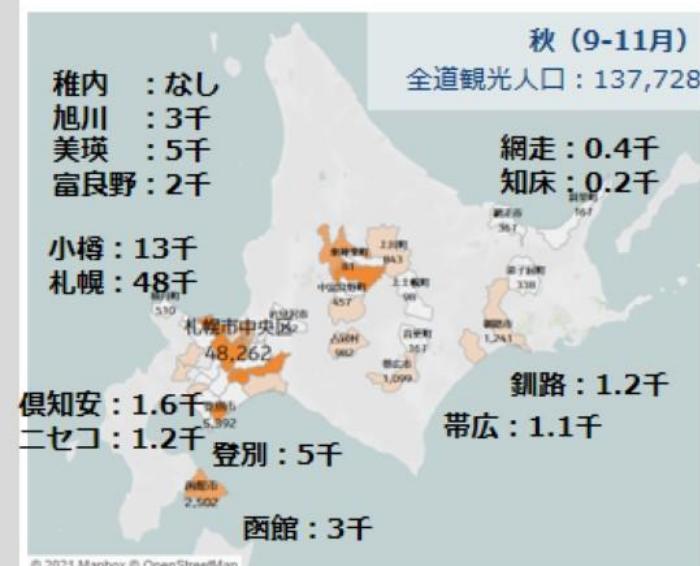
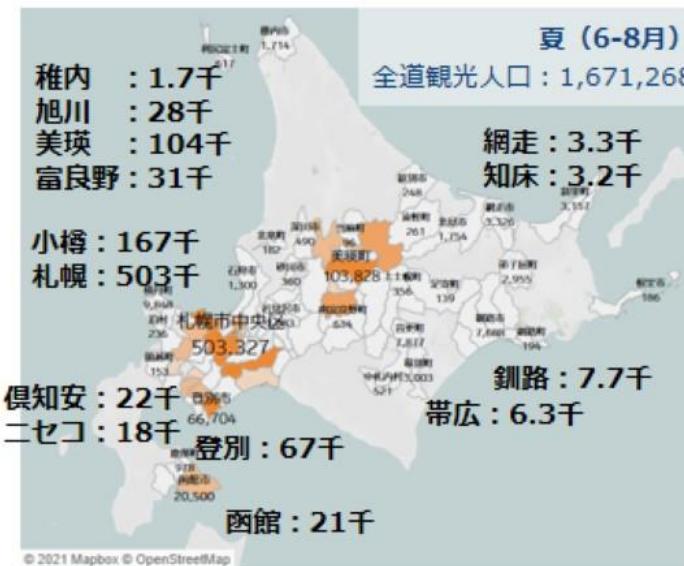
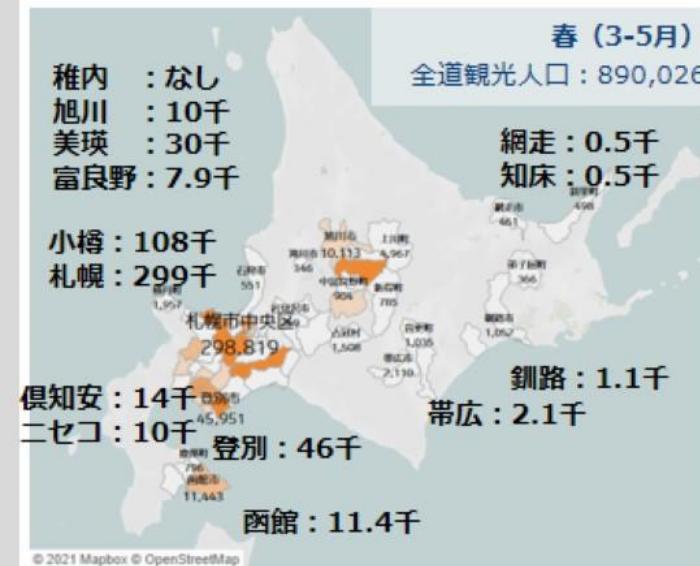
- 冬は、札幌や小樽の来訪が最も多い時期である他、釧路や網走の来訪も他の時期と比較して多い。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（韓国）

●季節別の観光人口（韓国）



・日韓情勢の影響もあり、秋の訪問者が少ない。

・全体の季節を通じて訪問市区町村数が少ない傾向があり、道央に集中している様子が見て取れ、札幌への来訪が他の国籍と比較してもはるかに多い。

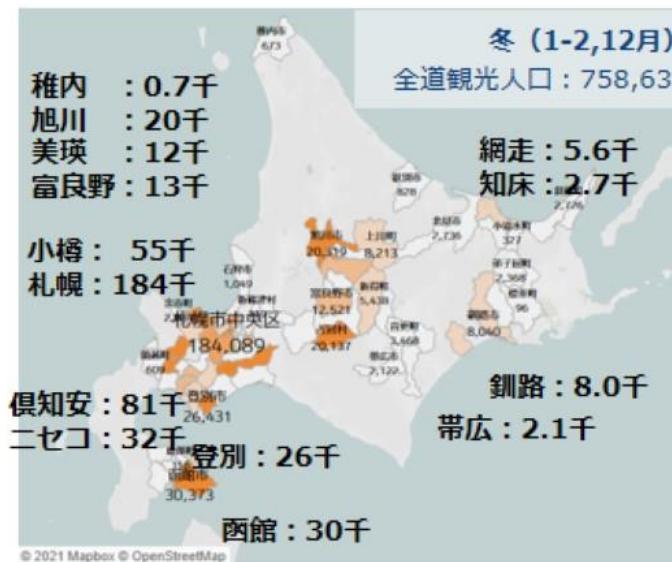
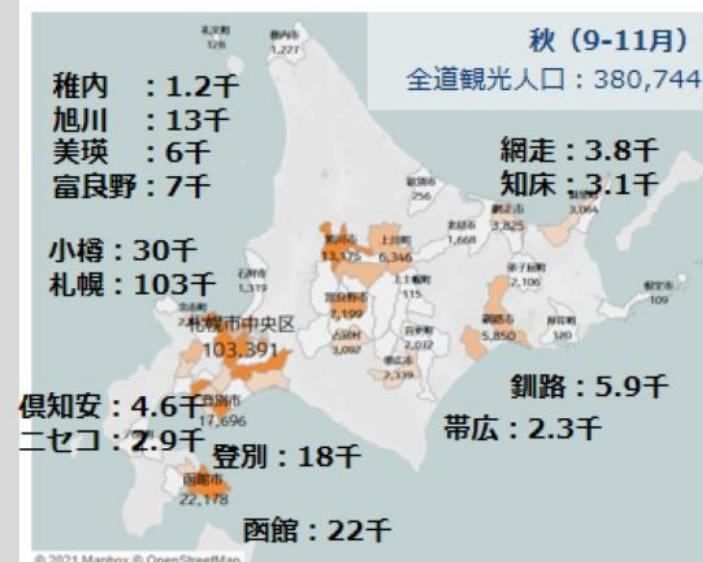
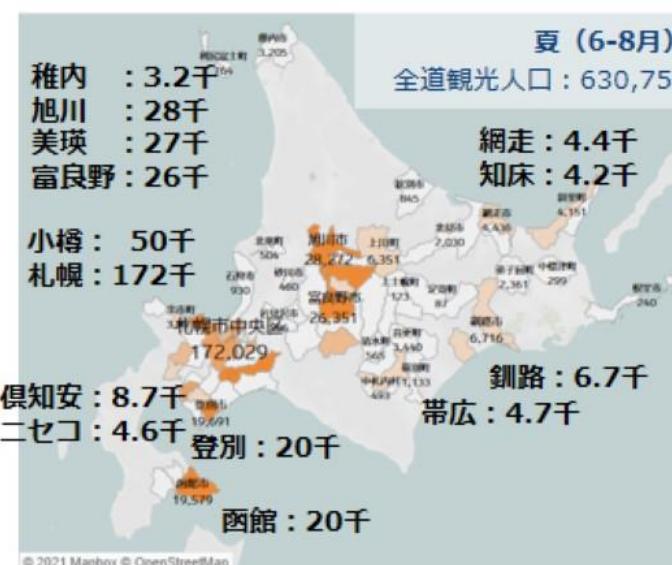
・道央以外へのエリアへの訪問が少ない傾向にある。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（香港）

●季節別の観光人口（香港）



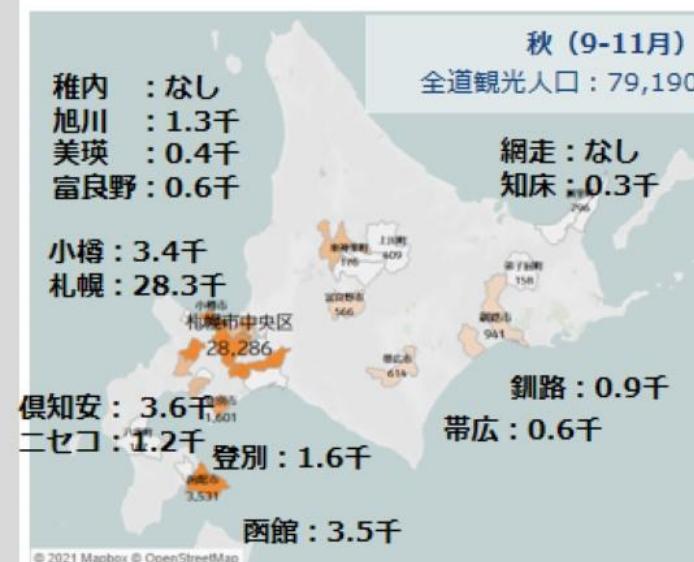
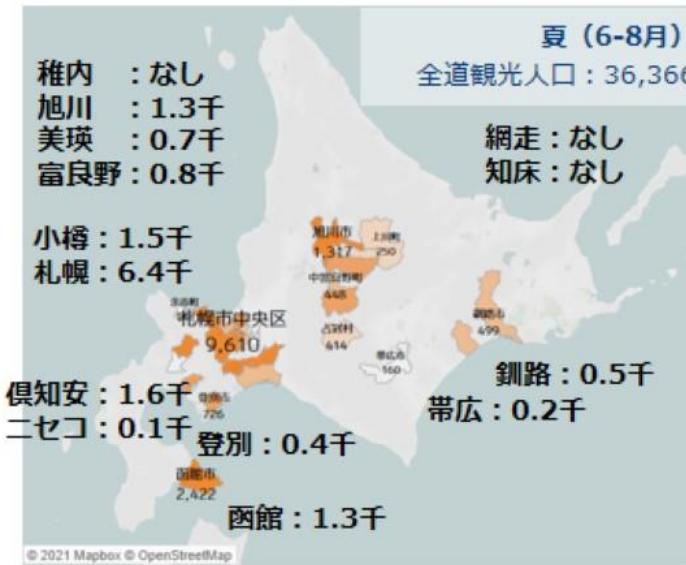
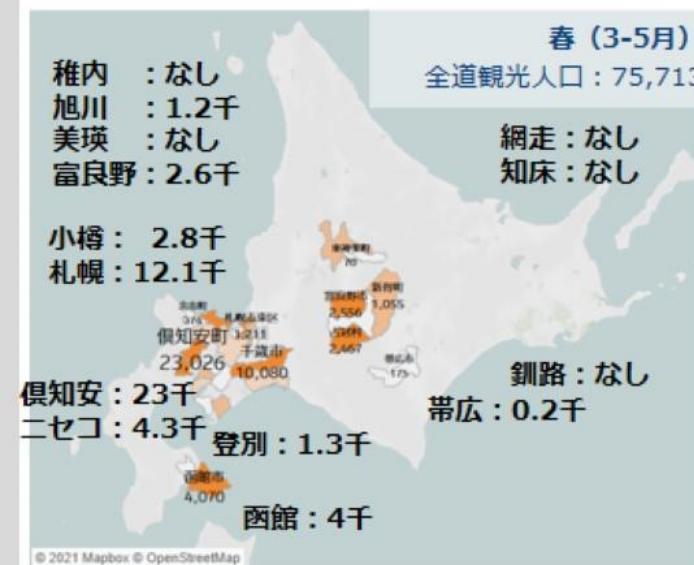
- ・全体的に冬の訪問者が多い傾向にあるが、美瑛や富良野、旭川、稚内、帯広、知床などは夏が最も多い。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（オーストラリア）

●季節別の観光人口（オーストラリア）



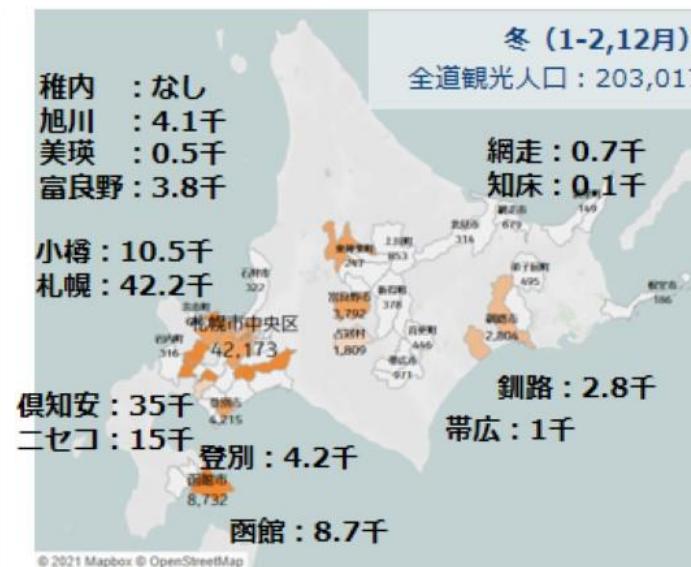
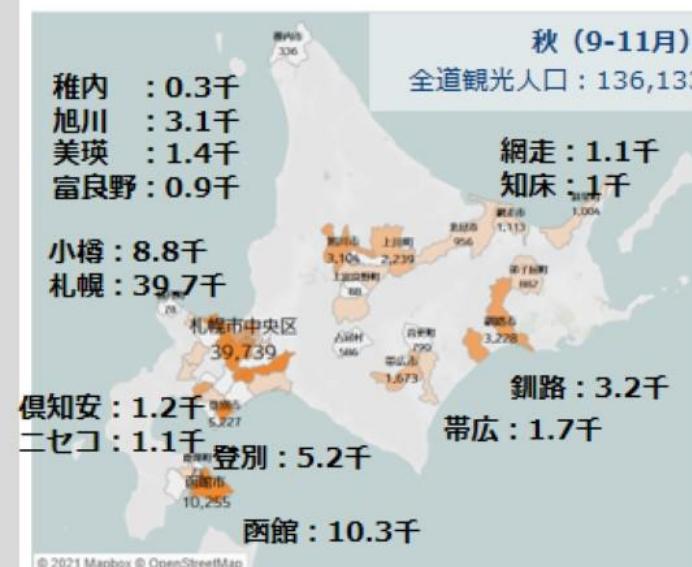
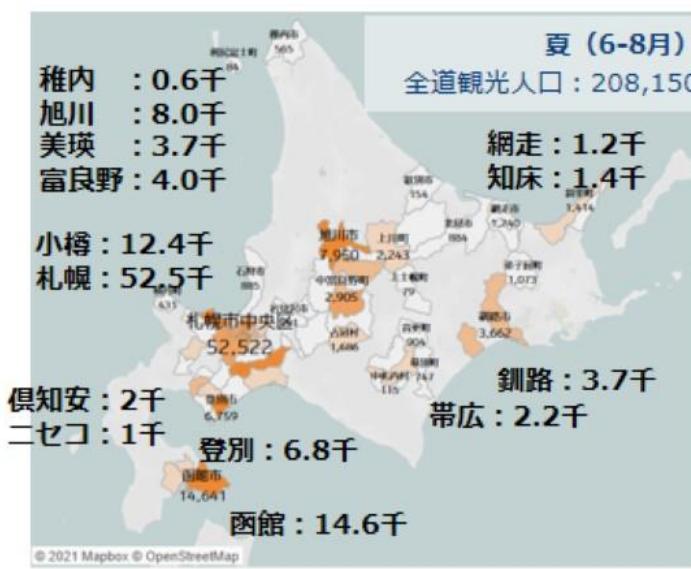
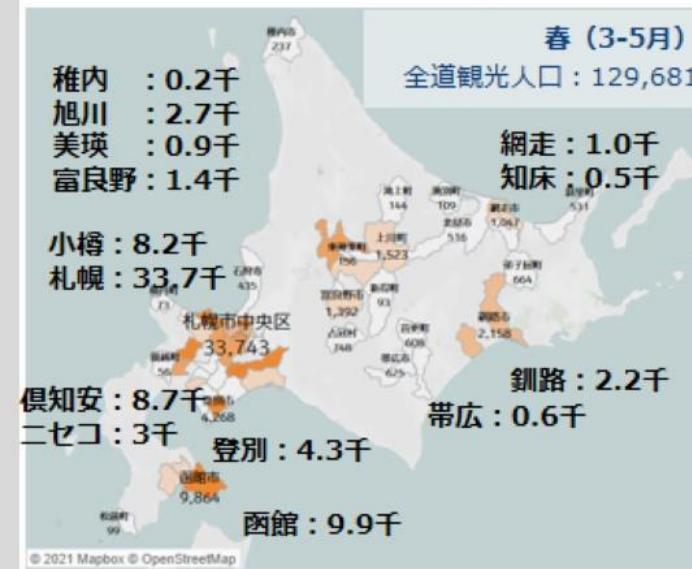
- ・冬の訪問者が圧倒的に多く、特に倶知安やニセコへの来訪が多く、札幌よりも多い。
- ・冬において、倶知安、ニセコ、札幌以外では、富良野が多い。
- ・他の国籍と比較して、各市区町村への訪問数が少ない。とりわけ、道北、道東への訪問が少ない。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（アメリカ）

●季節別の観光人口（アメリカ）



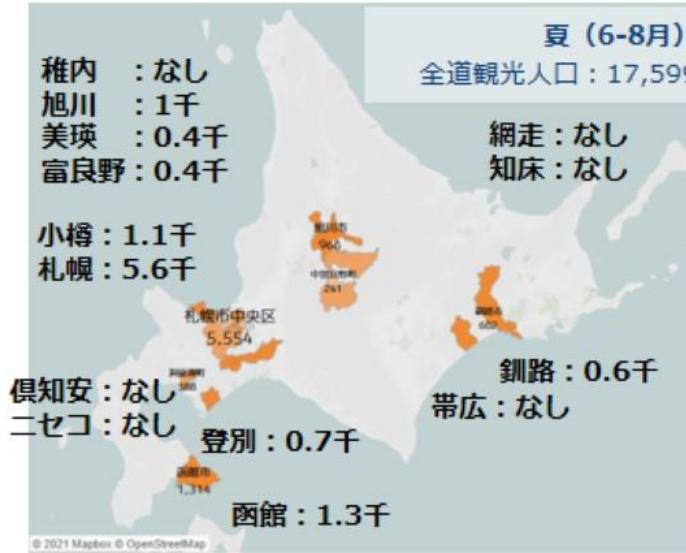
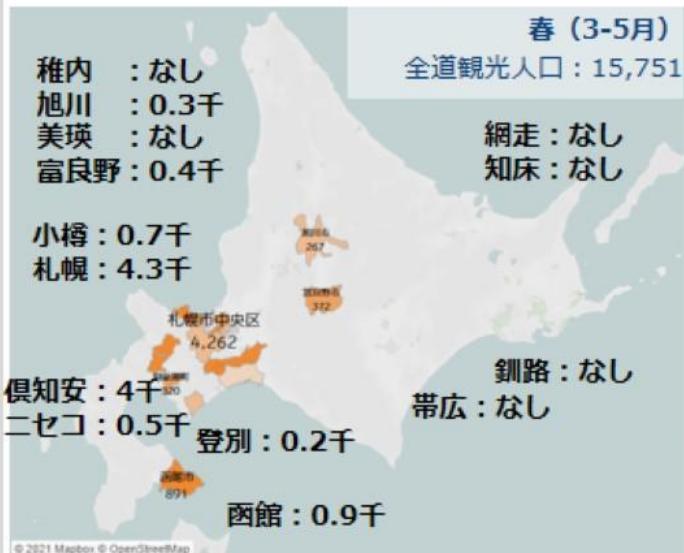
- ・全体の訪問者数は少ないものの、網走や知床、釧路へ来訪している人数は多い傾向である。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（イギリス）

●季節別の観光人口（イギリス）



- ・全体の訪問者数は少ないものの、1年を通して、旭川、美瑛、富良野や釧路への訪問も見られた。



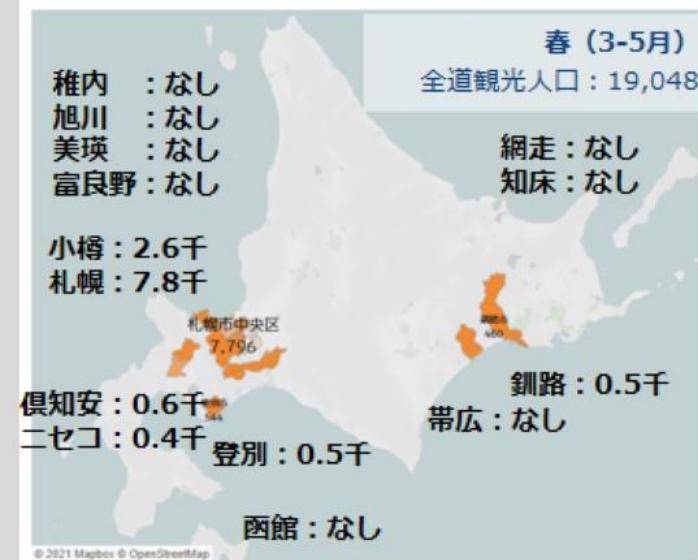
- ・最も観光人口の多い秋は、札幌への偏りが大きく、一方で2番目に多い冬では、札幌より俱知安の訪問者が多い。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計

観光客の季節別訪問先（ロシア）

●季節別の観光人口（ロシア）



- ・全体の訪問者数は少なく、1年を通して道央エリアに偏りが見られるが、春には釧路への訪問も見られた。

※札幌市は中央区のみの数字を記載

出典：モバイル空間統計